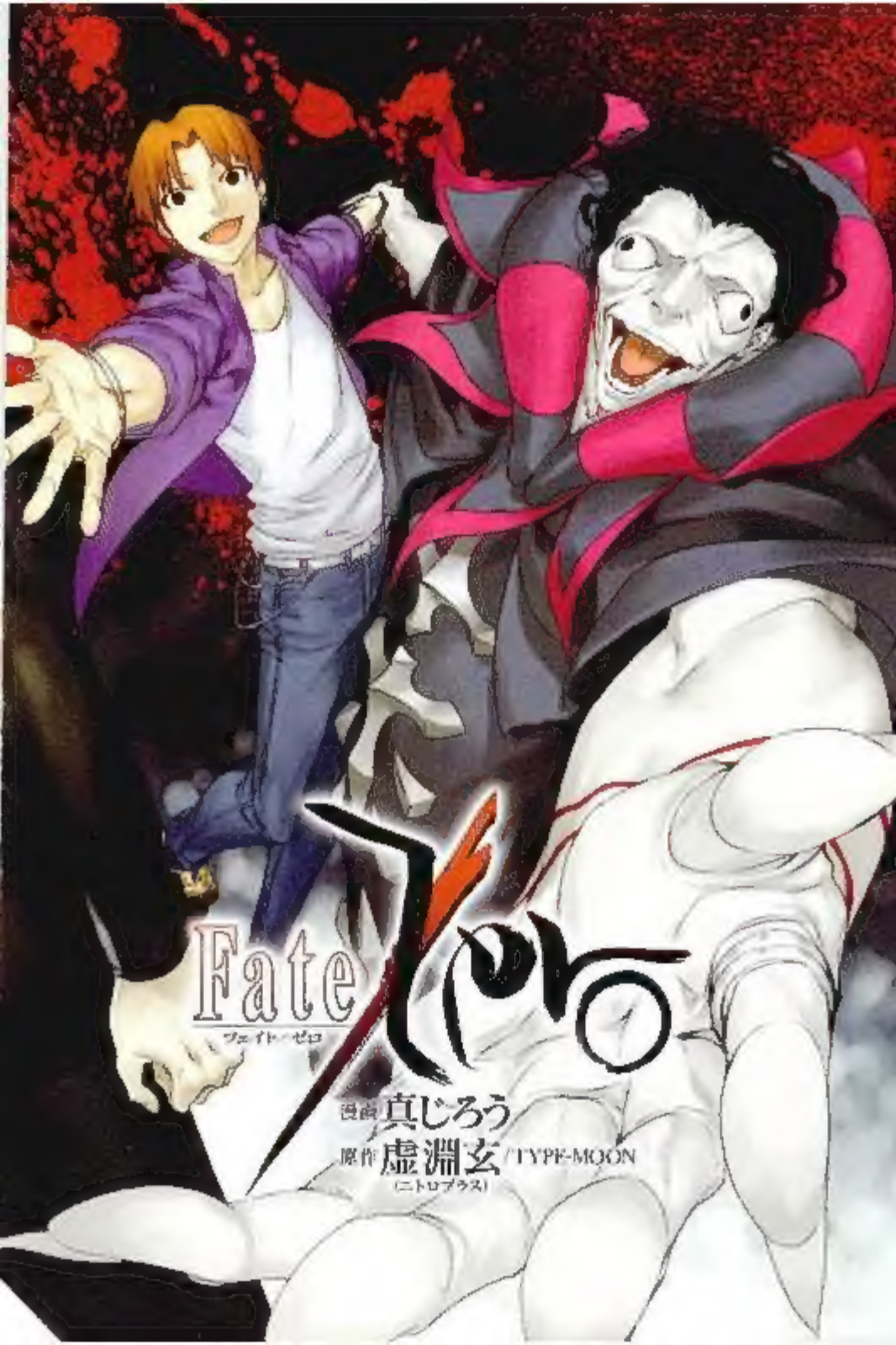
Kadokawa Comics A

Kadokawa Com


Fate
フェイト/ゼロ
ゼロ
漫画 真じろう
原作 虚淵玄/TYPE-MOON
(ニトロプラス)

第32話

Contents

第 32 話
001

第 33 話
031

第 34 話
063

第 35 話
089

第 36 話
123

番 外 編
◆Kiritsugu's analysis◆
153

ワシャ
アーチャー
遠坂邸に動きはなし
初日のアサシン
撃退以来
穴籠を決め込んだ
まま沈黙
バーサーカー
間桐邸を出入りする
マスターらしき
人物は無防備で
襲撃は容易に見える
しかしバーサーカーの
奇怪な能力は
アーチャーの不可解な
宝具に拮抗しうる
遠坂を牽制する意味で
今は泳がせておくか

ランサー
重傷のケイネスに代わり許線であるソラウが行動を開始
おそらく現時点では彼女がランサーを統べているのだろう
「偽臣の書」による代行マスターなのかあるいは令呪を強奪して再契約を果たしたか……
前者であればソラウは抹殺しても魔力供給は断絶されずランサーを無力化できない
ソラウに襲撃をかけるか否かはもう少し動向を窺う必要がある
キャスター
昨夜もまた市内で数名の児童が失踪
依然として何の悼りもなく猟奇を繰り返しているようだ
ライダー
手掛かりなし
常にマスター共々飛行宝具で移動するため追跡が困難一見 豪放に見えて隙のない慎重だ

昨夜の
アインツベルン城
での出来事に
ついては舞弥から
報告があった
ライダーが
「王の軍勢」なる
途方もない宝具を
展開させアサシンを
消滅させるに
至ったという……
その宝具の詳細も
気になるが
気懸かりなのは
アサシンの
末路についてだ
増殖のカラクリは
わからず終いだが
アサシンの軍勢が
総戦力を動員した
ものだったことは
間違いあるまい
でなければ非力を
数で補おうという
人海戦術は
意味を成さない
今度こそアサシンは
完全消滅したものと
考えていいだろう
コポッ
では――そのマスターは?
ッ…

言峰綺礼
この男がどういう
意図でこの戦いに
参加しているのか
未だに理解できない
第四次聖杯戦争に
おける最大の『異物』
ケイネス襲撃の
際の待ち伏せ
アインツベルンの
森への侵入
遠坂時臣の傀儡となって
斥候役を務めるのならば
これらの行動は不可解だ

だがどちらも僕が標的だったと仮定すれば筋が通る…
敗退を演出し教会に保護されながらなお多数のアサシンを統べて聖杯活動を進めるという作戦は見事だ
しかしこの作戦は言峰綺礼が教会に属してこそ完璧なものとなる
そもそも僕の存在は昨日の時点では誰にも捕捉されていなかったはず
私怨――という可能性もない
そうでなかったとしても大局の戦略をないがしろにするほどの理由はない
調査では あの男と僕の間にはまるで接点がなかった
いずれにせよ言峰綺礼は今後も必ず僕の行く手に立ちはだかってくるだろう
この男の行動原理が何であれ それが聖杯戦争の埒外にあるのは明白だ
サーヴァントを失ったからといって大人しく脱落してくれるような手合いではない…

……貴様は何者だ？

：馬鹿な
いい加減にしろ
敗残マスターに
負けて肝心の戦いを
忘れるようでは
ヒデヲもヒデヲもない
アンフ
では部隊化
疲労が
ヒデヲ……
あんまりだ……ッ！

"書き込みのてきレ書き"
仕上げてきたアートが
酷すぎる!!
こんな
こ…ここから…!

これが人間のやることかよオオォッ!!
ウワアアー

リュウノスケ
貴方は人間性というものの中に潜む悪の根源についてまだ理解がなかったのですね
ならば戦うのも無理はない……
ねえリュウノスケ本当の悪と調和を理解できるものはごく一握りの人間だけなのです
むしろ貴方の行為は普遍の聖性に触れた冒瀆 破綻に駆られた獣と化す
連中にとって悪とは破壊の対象にしかなり得ないのです
……

私たちの創造は
常に愚昧なる破壊との
相克という試練に
晒されているのですよ
なればこそ
被造物に過度の
愛着を抱くのは
禁物だ
ひとたび形を
与えられた物は
いずれ壊れゆく
運命にあるものです
むしろ我々創造者は
創作の過程にこそ
喜びを感じ
るべきなのです

…壊れた分だけ
また造りゃあ
いいってこと？

その通り！
いつもながら
その端的なる理解は
貴方の美徳ですよ

オレたち
あんまり楽しみ
すぎたせいで——
もしかして
バチが当たった
のかなぁ？

！

これだけは
言っておきますよ
リュウノスケ
神は決して
人間を罰しない
ただ玩弄する
だけです
だ 旦那？
かつて私は
具現しうる限りの
肉体と精神を重ねた
あなたの為した
邪悪など私のそれに
比べれば子供の
手遊いも同然だ
が 殺せども
殺せどもこの身に
下るはずの神罰は
なく——
気がつけば邪悪の
探究は八年に及び
罪過され続けた！
千の幼子の
嘆きと悲鳴は
すべて虚しく
闇に消えた！

最後に私を
滅ぼしたのは
神ではなく
同じ人間ともの
欲望でした
教会と国王が断罪の
名目で私を処刑したのは
結局私の富と領土を
悪家せんがための計計で
しかなかったのです…!
私が冒険に参止めを
かけたのは救き
などとは程遠い——
ただの
略奪!
我が罪よりもなお
罰をかけて浅ましい
ヒトの悪徳
だったのですよ!!
でも旦那……
それでも神様は
いるんだろ?

……何故
リュウノスケ？
信仰もなく
奇跡も知らぬ
貴方がそのように
思うのです？
だってこの世は
退屈だらけな
ようでいて……
だけど探せば
探すほど面白
オカシイことが
多すぎる
昔から
思ってたよ
こんなにも至る所に
愉快なことが
仕込まれまくってる
世界ってヤツは
出来すぎてるくらいな
代物だって
ちょっと見方を
変えれば気づく
知恵を巡らせ
探し出せる
伏線が満載だ
いざ本気で
楽しもうと思ったら
この世界に勝るほどの
エンターテインメント
は他にねえよ

きっと誰かが書いてんだよ脚本を
野球人物五〇億人の大河小説を書いてるエンターテイナーがいるんだよ
…そんなヤツについて思ろうと思ったらこりゃあもう神様としか呼びようがねぇ
――ではリュウノスケ
はたして神は人間を愛していると思いますか？

そりゃあもう
ぞっこんに

そりゃ愛が
なきゃやって
られねえでしょ
うん

この世界のシナリオを
何千年だか何万年だか
ずっと休まず書き続けて
るんだとしたらさ？

きっともう
ノリノリで
書いてんだと
思うよ
自分で
自分の作品を
楽しみながら
愛とか
勇気とかに
感動してさ
悲鳴場には
ボロボロ
泣いて
んでもって
恐怖とか絶望
とかにはハアハア
目え剥いていきり
勃ってるわけさ
神様は勇気とか
希望とかいった
人間賛歌が
大好きだし
それと同じぐらいに
血飛沫やら
悲鳴やら絶望だって
大好きなのさ
でなけ
りゃあ――

生き物のハラワタが
あんなにも色鮮やかな
わけがない
だから旦那

きっと
この世界は神様の
愛に満ちてるよ

この時代
もはや民草に
信心はなく為政も
また神意を捨てた
そんな最果ての
地と思って
いましたが……
まさかこんなにも
新しく瑞々しい
信仰が芽吹いて
いようとは
心服しました
リュウノスケ
我がマスターよ
いやそんな
照れくさいって
しかし貴方の
宗教観に拠るならば——
我が酒神も
茶番にすぎない
のでしょうか

いやぁ汚れ役だってきちっと引き受けて笑いを取るのが一流のエンターテイナーってもんでしょ
旦那の容赦ないツッコミには きっと神さまも大喜びでボケを返してくると思うけど
ハ――ハハハハ
徳神も！
礼賛も！
貴方にとっては等しく同じ崇拝であると申せか！
フハハハ

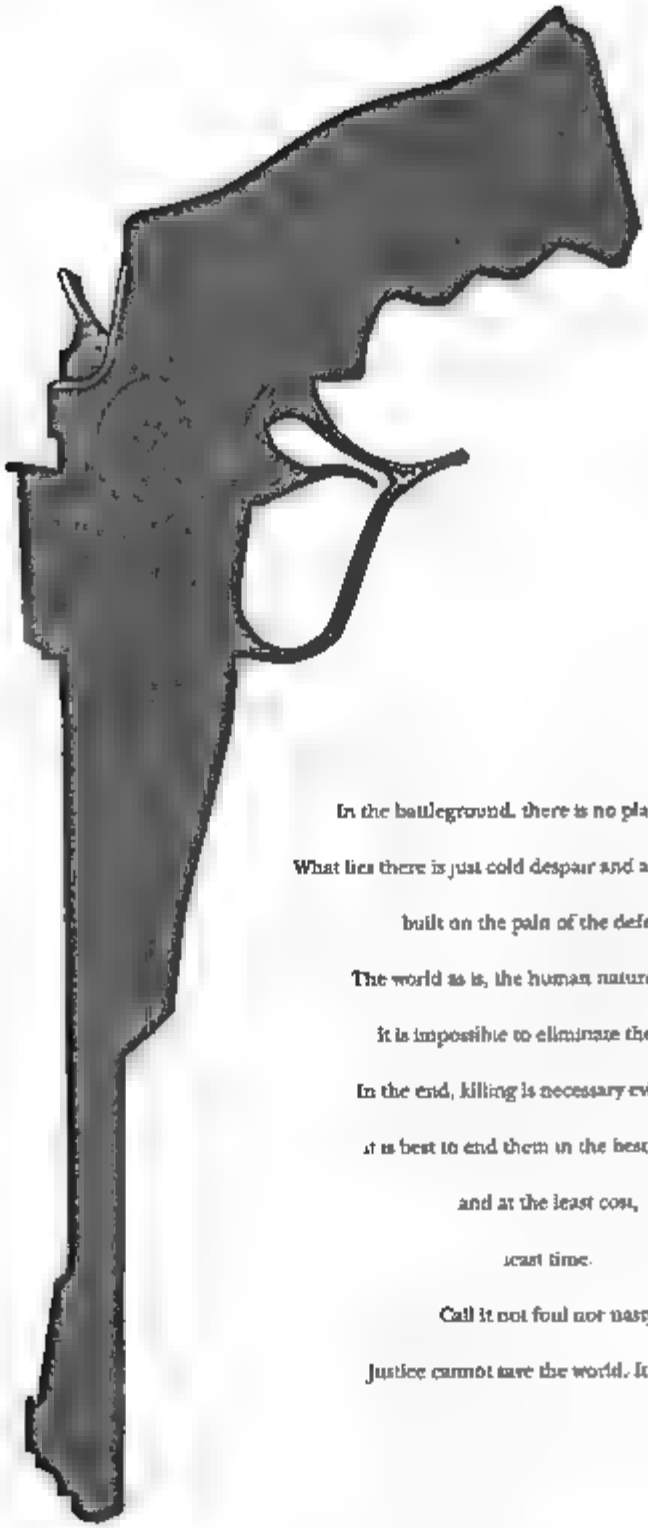
ああリュウノスケ！
まったく貴方という人は深遠な哲学をお持ちだ！
あまねく万人を愛玩人形とする神が自身もまた道化とは……
宜しい
ならばひと思わ色鮮やかな感覚と慟哭で神の庭を染め上げてやろうではないですか

成る程！
ならばその悪辣な趣向も頂ける！
ハハハハハハ！

娯楽の何たるかを
心得ているのは
神だけではない
ということを
天上の漫画家に
知らしめてやらねば！

うおー
何かまたスゲェことやるんだね旦那ッ!?
そうと決まれば前祝いですリュウノスケ
今日の妻はとりわけ趣向を凝らして愉しむとしましょう
合点承知だ！
燃やされちまったヤツのどれよりもCOOLなのを仕上げるよオレ！

Fate



In the battleground, there is no place for hope

What lies there is just cold despair and a sin called victory,

built on the pain of the defeated.

The world as is, the human nature as always,

it is impossible to eliminate the battles.

In the end, killing is necessary evil-and if so,

it is best to end them in the best efficiency

and at the least cost,

least time.

Call it not foul nor nasty.

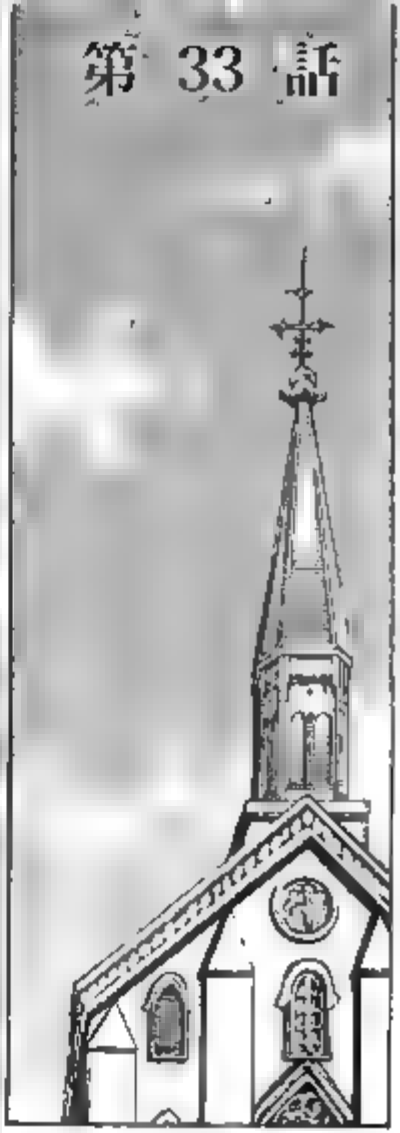
Justice cannot save the world. It is useless.

第33話

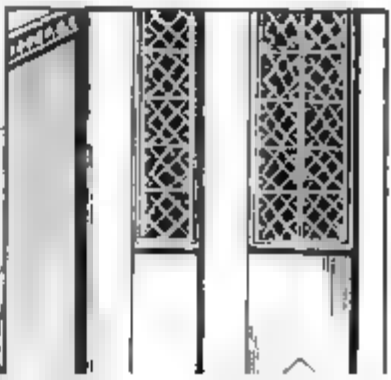
今日はまた
随分と上機嫌だな
アーチャー

聖杯とやらの格は
未だに見えぬが
たとえガラクタで
あったとしても
良しとしよう

我はそれ以外の
愉しみを見出した



—91:40:34



ほう……
意外だな
贋物ばかりの
醜悪な世界と
聞いていた
この時代でか？
それは変わらぬ
だが聖杯戦争
とやらは最後まで
見届ける気になった
……
我はな
傲慢なる
生を好む
器の卑小さを
弁えず
大望を懐く者
そういう奴は
見ているだけで
我を愉しませる
傲岸にも
二種類あってな
器が小さすぎる場合と
望みが大きすぎる場合
前者は珍しくもない
愚昧にすぎんが
後者はなかなか
得難い珍種だ
愚かであることに違いはないではないか

凡俗な賢しさより
希有な愚かしさの
方が眩かろう？
人として生まれ
落ちながら
人ならざる領域の
悲嘆を悟り
そのために
人であることを
捨てた者――
見ていて
飽きぬのだ
そういう者の
煩悶と絶望は

綺礼
そういう
お前こそ今日は
珍しく上機嫌に
見えるぞ
ただの安堵だ
煩わしかった
重荷からようやく
解放されたのでな

消えた令呪というのはその後どうなる？

あの魔力の塊だまるか完全に消失するわけではあるまい？

理屈の上では再び聖杯の元へと還る

令呪はあくまで聖杯による賜だ

サーヴァントを喚いマスターの資格を失った者からは聖杯がその令呪を回収するわけだ

そしてもし仮にマスターを失って契約を解消されたサーヴァントが出てきた場合

聖杯は回収した未使用分の令呪を新たな契約候補者へと再配布する

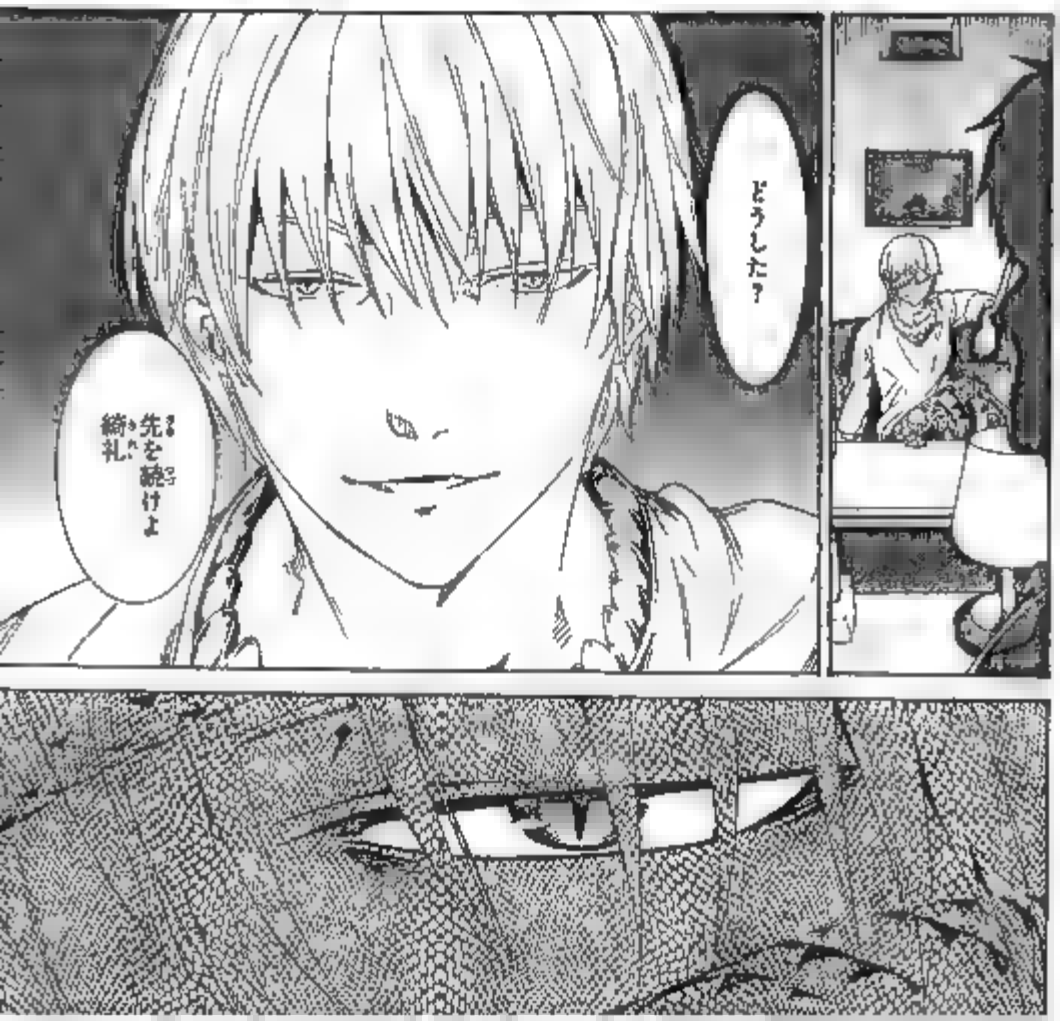
ではこの後の展開次第では新たなるマスターが現れる可能性もあるということか

そうだな

だが聖杯に選ばれる適格者というのはそうはいない

結局聖杯は以前にマスターとして見込んだ人間を優先的に選ぶ傾向がある

とりわけ
【始まりの御三家】
のマスターたちは
別格の扱いだ
サーヴァントを
失ってもその時点で
他に未契約状態の
サーヴァントがいれば
令呪を失うことすらなく
継続してマスター権を
維持できるという
過去に何度か
そういう事例が
あったそうだ――


どうした？
先を続けよ
綺礼

……ともかく
戦いから脱落した
マスターを
監督教会が保護する
のもそれが理由だ
聖杯戦争の参加者は
敵対するマスターを
無力化するだけでなく
殺そうとする
残りのマスターに
空席が生じた場合
「使い残し」の
令呪を再配与される
可能性が高いからな
アサシンによる
調査は全て済み
時臣師は既に
必勝戦略を
用意している
今さら私の
出る幕はない
我に言わせれば
そもそもその時臣の
仮説こそが疑わしい
あの男がそこまで
聖杯に肩入れ
されるほどの器
とは思えぬからな
フフン
その理屈でいけば
お前が再び令呪を
得る可能性もまた大
なのではないか？
有り得ぬよ
聖杯が私に期待したのが
時臣師の説の通りで
あったなら もう私は
その役目を果たし終えた

自らのマスターに対し よくもそこまで偽りなく言えたものだ
我と従臣との主従関係について大きく誤解しているようだな
従臣は我に臣下としての礼を尽くし供物として魔力を献上している
そういう契約だからこそ我は彼奴の召喚に応じたのだ
我を他のサーヴァントどものような使い魔と同列に見なすでない
ならば令呪の存在はどう捉えている？
気に食わん
…が 臣が よき臣下たらんと努めるならばときには諫言にも耳を傾けるのも吝かではない

当面はキャスターの首級をめぐる競争としての局面が続く
それが終わって同引けるだけの敵が同引かれた後は――
キィ
アーチャーおまえの出番だ
こうして呑気に油を売っている暇はなくなるぞ
時臣めの手綱いやり方ではそれもまだまだ先の話であろうよ
当面は別の趣向で無聊を慰めるしかあるまい

――そういえば綺礼
お前はさっきアサシンは調査を全て終えたと言っていたが？
ああ例の件かまあそれなりの調べは済んでいる
昨夜のうちにアサシン自身から報告させるべきだったな
そうすれば説明の手間も
いいやこれでいい
あんな影ごときの言葉などに興味はない
綺礼
これはお前の口を介して聞られなければ意味のない報告だ
わかった

まずランサー及び
ライダーのマスター
については
べつだん聖杯に
託するだけの願望が
あるわけでもない
ただ魔術師としての
栄誉のために勝利を
求めているだけのこと
キャスターの
マスターに至っては
そもそも聖杯の
何たるかさえ
理解していない
ただの快楽殺人の
延長として
聖杯戦争に加わって
いるにすぎない

バーサーカーの
マスターは何とも
青臭いことに贖罪を
求めている
自身が間桐家から
逐電したことで
代わりに遠坂の次女が
次期頭主に祭り上げ
られることになった
それを今になって
解放しろと要求……
取引材料として
彼は聖杯を勝ち取る
という使命を課された

しかもどうやら
時臣師の兄方とも
過去の因縁が
あるらしい
ある意味敵対する
マスターの中で
もっとも卑俗で
凡庸な動機の
持ち主といえる

セイバーの
マスターに
ついては――…

アインツベルン家は
百年の宿敵――
つまり聖杯の降臨を
実現させるという
悲願のみを求めている
そのために手段を
選ばぬとばかりに外様の
魔術師専門の暗殺者を
雇い入れる始末

ふん
期待はずれも
いいところだな
所詮は雑種
どいつもこいつも
凡俗なばかりで
何の面白味もない
くだらぬ理由で
我が宝を求めおって
いずれも
酌量の余地なく
極刑に処すべき
輩どもだ
これだけ他人を
煩わせておいて
出てきた悪報が
それか
徒労に付き
合わされた
身にも
なってみろ
徒労
だと？
何を言うか
お前とアサシンの
骨折りには
充分な成果が
あったではないか

私をからかっているのか？英雄王
解せぬか
己の愉悦の在処さえ見定められぬ男だからな
まぁ無理もない
自覚がなくとも魂というものは本能的に愉悦を追い求める
喰えれば血の匂いを辿る獣のようにな
そういう心の動きは興味・関心として表に表れる
故に綺礼
お前が見聞きし理解した事柄をお前の口から語らせたことには既に充分な意味があるのだ

もっとも多くの言葉を
尽くして語った部分が
つまりはお前の
「興味」を惹きつけた
出来事に他ならぬ
人間という玩具
人生という物語…
とりわけ「愉悦」の
源泉を探るとなれば
ヒトについて
語らせるのが一番だ
これに勝る
娯楽はないからな
まずお前が意図的に
言葉を伏せた人物に
ついては除外しよう
自覚のある関心は
ただの執着でしかない
お前の場合は
もっと無自覚な
興味にこそ注目
するべきだ

さてそうなると
残る四人の
マスターのうち
お前が最も熱を
込めて殴った者は
誰だったか？
……クク
バーサーカーの
マスター
カリヤとか
言ったかな？
この男については
随分と子細に報告
してくれたではないか
……事情の入り
組んでいる人物だ
それなりの説明を
要したという
だけのことだが
フン
違うな
お前はこの男に
ついてのみ
「入り組んだ事情が
見えてくるほどの
掘り下げた調査」を
アサシンに強要して
しまったのだ
お前自身の
無自覚な興味に
よってな

判断のミスは認める
確かに考えてみれば間桐雁夜は短命で脆弱な敵だ
長い目で見れば奇蹟ではなく注目に値しない
私が彼を過大評価していたことで結果的にお前の余計な犠牲を招いてしまった
フフン
そうきたか

ではここから先は仮定の話だ
万が一の奇跡と僥倖が重なりバーサーカーとそのマスターが最後まで生き永らえるシナリオを想定してみろ
そのとき何が起こるかお前には思い描けるか？

ククッ

クハハッ
なあ綺礼よ
もういい加減に気付いてもいいのではないか？
この問いかけの本質的な意味に
……何だと？
教えろアーチャー
間桐雁夜の勝利を仮想することに一体どういう意味がある？

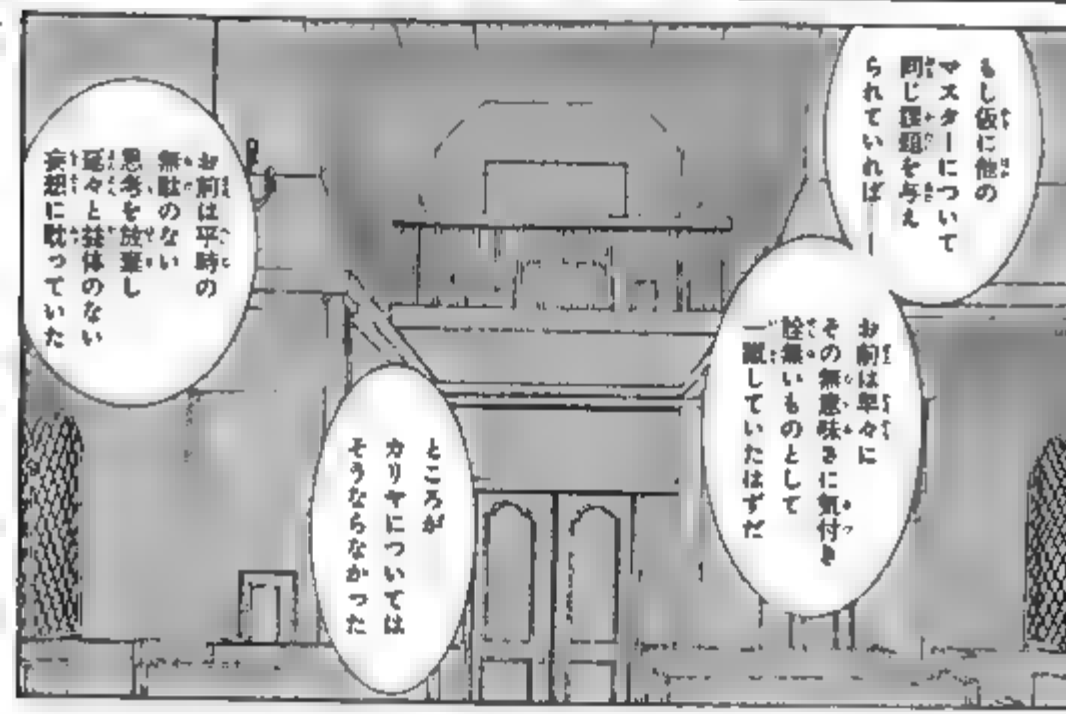
ないさ

意味など微塵もない

おいおい
そう怖い顔を
するな

何度も言うが
我はお前を
からかっている
わけではない

考えてもみよ
その思い井の
無意味さについて
言峰綺礼が
気付かなかった
という事実
そこには明白にして
揺るがぬ意味が
あるとは思わぬか？
ギリ…
説明しろ
アーチャー


もし仮に他の
マスターについて
同じ課題を与え
られていれば――
お前は早々に
その無意味さに気付き
詮無いものとして
一蹴していたはずだ
ところが
カリヤについては
そうならなかった
お前は平時の
無駄のない
思考を放棄し
延々と結論のない
妄想に耽っていた

無意味さの忘却
苦にならぬ徒労
即ち——
紛れもなく
「遊興」だ
祝えよ紛礼
お前はついに
「娯楽」の何たるかを
理解したのだぞ

……娯楽
即ち愉悦だと？
然り

同棲雁夜の命運にヒトの「悦」たる娯楽など皆無だ
彼は生き長らえる程に痛みと嘆きを積み重ねるしかない
いっそ早々に命を落とした方がまだ救われる人物だ
――綺礼よなぜそう「悦」を狭義に捉える？

痛みと嘆きを「悦」とすることに何の矛盾があるというのだ？
愉悦の在り方に定型などない
それが解せぬから迷うのだ お前は
それは許されることではない！
英雄王 貴様のようなヒトならざる魔性なら他者の辛苦を蜜の味とするのも納得
だがそれは罪人の魂だ！
罰せられるべき悪徳だ！
わけても この冒険綺礼が生きる信仰の道に於いてはな!!

故に愉悦そのものを
罪と断じてきたか
ハッハァハ
よくぞそこまで
屈折できたな
つくづく面白い
男だよ お前は
ッ!?

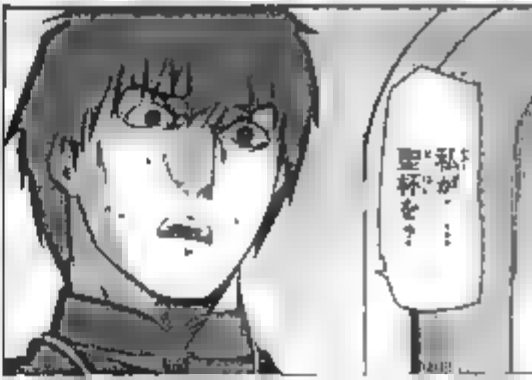
ほぼう
やはり我の
予想通りか
それにしても
随分とまた
早かったな

……馬鹿な…っ！

それが真に
万能の願望機で
あるならば——

どうやら聖杯は
言峰綺礼に余程の
期待を託している
様子だな

綺礼 お前もまた
聖杯の求めに
応じるべきだ
紛れもなく
お前には願望機を
求めるだけの
理由がある


私が……
聖杯を？

聖杯はお前自身にすら
理解の及ばぬ心の奥底の
願望を そのままに形を
与えて示すことだろう

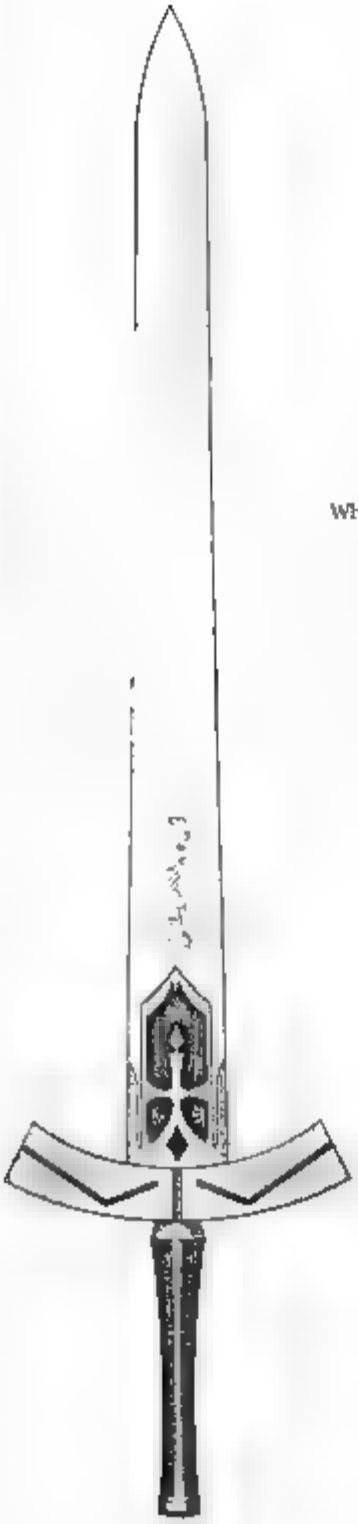
悪霊は決して
お前に答えを
もたらさない
倫理に縛られた
その思索こそお前という
人間を歪めている
元凶なのだ
ならば聖杯を
手にして祈れ
しかる後に
アレのもたらした
モノを見届けて
それを自らの幸福の
形と知ればよい

だがそれは
六つの願望を
殺し潰した後に
はじめて手に
入る結末だ
私個人の要求で
聖杯を求める
ならばそれは……
我が願をも
他に通すという
ことになる！
せいぜい強力な
サーヴァントを
見繕うことだな
この我と争う
のであれば
そもそも
前提として
まずお前は
他のマスターの
サーヴァントを
奪い取るところ
から始めなければ
ならないわけだが
ならばいっそ――

いや 言うまい
ここから先は 万事がお前次第 なのだから
それこそが 娯楽の本道だ
攻めるところを 為すがいい
そして娯楽は 愉悦を導き 愉悦は幸福の 在処を指し示す
道は示されて いるぞ 綺礼
もはや感うまでも ないほど剛確にな

第33話／END

Fate



In the battleground, there is no place for hope.

What lies there is just cold despair and a sin called victory,

built on the pain of the defeated.

The world as is, the human nature as always,

it is impossible to eliminate the battles.

In the end, killing is necessary evil-and if so,

it is best to end them in the best efficiency

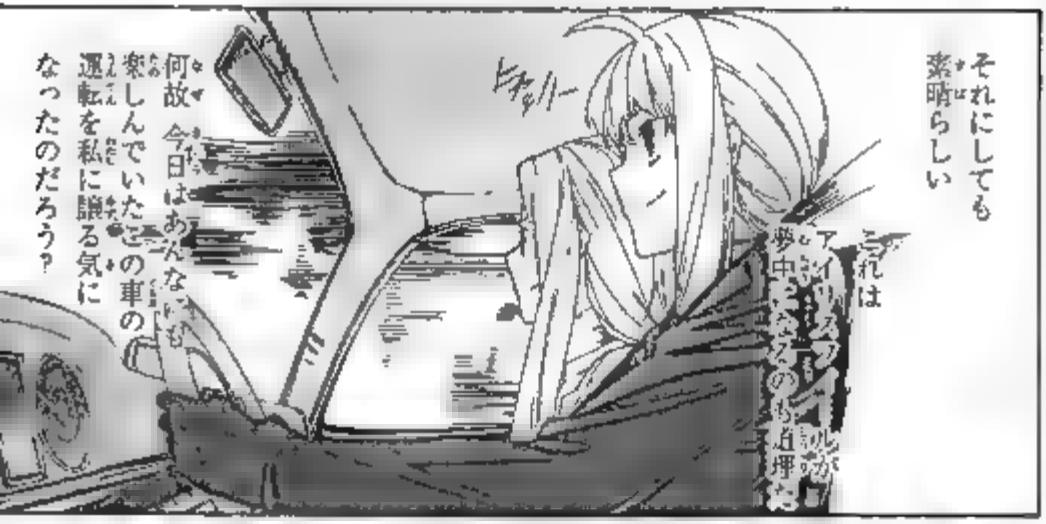
and at the least cost,

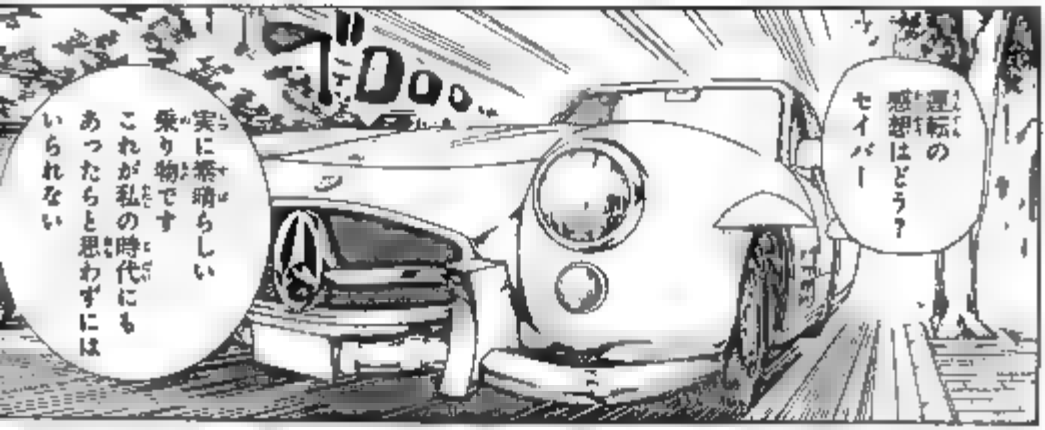
least time.

Call it not foul nor nasty.

Justice cannot save the world. It is useless.

第34話


それにしても
素晴らしい
これは
何故 今日はあんなにも
楽しんでいたこの車の
運転を私に譲る気に
なったのだろう？


運転の
感想はどう？
セイバー
実に素晴らしい
乗り物です
これが私の時代にも
あったらと思わずには
いられない

それにしても
サーヴァントの
スキルって
本当に凄いのね
初めて触る
機械なのに
あなたの操縦
って完璧よ

私もいささか
奇妙な感覚では
ありますが――
まるで遠い昔に
脳に覚え込ませた
技術を振るっている
ような感じです
ふうん
理屈で理解する
というより
自然と次の操作が
思い当たるのです

ふと思ったんだけど
どこかの闇市場で
最新型の戦車か
爆撃機でも
買い付けてきて
あなたを乗せたら
それで聖杯戦争は
一気に片付いて
ちゃうんじゃない？
面白い発想では
ありますが――
信じて
言えます
いつの時代にも
私の剣に勝る
兵器などないと
それにしても
マイヤはますます
冬木市の内部に深く
入って行きますが
大丈夫なのですか？
その新しい拠点に
するという屋敷は
こんなにも戦場の
真中にあって

その者は剣士
不審がるほどの
ことじゃないわ
強さとやさしさは
きちんと両立し得る
証でもあるし
ひしめき合う観光客
立ち並ぶ屋台
サイン入りTシャツの
お店屋さんなどなど
「勇者様マスター」
してもアリかも
聖杯戦争では
時間がより貴重に
なってるから
敵味方の立場あり
やり取りはないわ
「勇者様」
になるのは
時間と労力
惜しまずやれるという
覚悟がある者よ

むしろ所在を
知られてない
という点で
切嗣が用意した
っていう新しい
拠点の方が以前の
城よりも有利
かもしれないわ
……

この辺りまでくれば
遠坂やマキリの拠点も
その気になれば
歩いて行けるほどの
距離しかないはずよ
自分と思い切った
場所を選んだ
ものだわ……

それがむしろ
盲点――という
発想は有り得ます
敵の意表を
つくという点に
限って言えば
切嗣の思考は
常に的確です

ここが……
ふうん
また随分と
不思議な建物ねぇ
お二人は今日から
ここを行動の拠点と
していただきます

あ それは セイバーが 預かっておいて
解りました
マイヤ この鍵は何でしょうか
1
他のものとは随分違いますが
庭にある土蔵のものです
古いですが 立て付けに不安がないのは確認済みです
つい先日 名義を買い取ったばかりなもので 申し訳ないのですが 何の準備もありません
生活の場としては相応しくないかもしれませんが……
モウマンタイ
構わないわ
とりあえず雨風さえ凌げるなら文句は言いません

ペコ
それでは私はこれで
ダッ
さてそれじゃあセイバー新居の点検といきますか
そうですね……

この国なりの幽霊屋敷って趣かしらね
……
あら どうかしたの？
いいえ貴女が怖わないというのならそれは それで助かる話です

きっと殿下は振張りで
干し草を編み固めた床に
紙の間仕切りで
部屋を分けてるのよ
ウフフ
むかし日本のお屋敷を
見てみたいって話したの
切絹は憶えていて
くれたのかしら
……

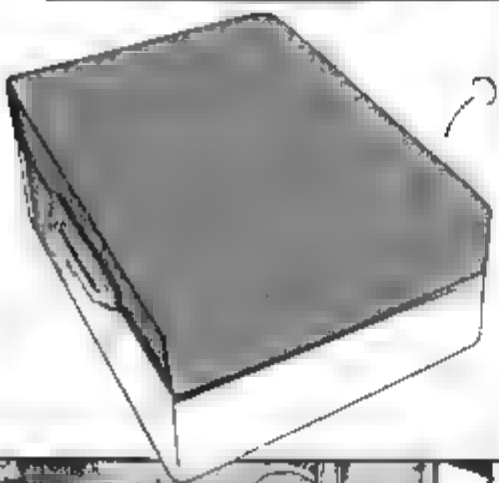
うぅ～ん……
期待していたほどの内容ではありませんでしたか？
うぅん
それは性能できたんだけどね
魔術師の拠点として考えるとちょっと難しいのよね ここ

結界の数紋は
いいんだけれど
工房の設置がね
まあこの国の
風土からすれば
仕方ないんだけれど
こうも開放的な
造りだと魔力が
散逸しすぎるわ
とりわけ
アインツベルンの
術式ともなると
うぐぐん
困ったなぁ
……
できれば石か土で
密閉された部屋が
欲しかったん
だけれど……
マイヤの話ですと
庭にも別棟の
倉庫があるとか
そちらも
見てみましょう

ああ これなら
理想的！
ちょっと
手狭だけれど
ここなら私城と
同じ要領で術式を
組んでも大丈夫ね
とりあえず魔法陣を
敷いておくだけで
私の領域として
固定化できそう

じゃあ
早速準備に
取りかかり
ましょうか

車に積んで
ある資材を
持ってきて
くれる？

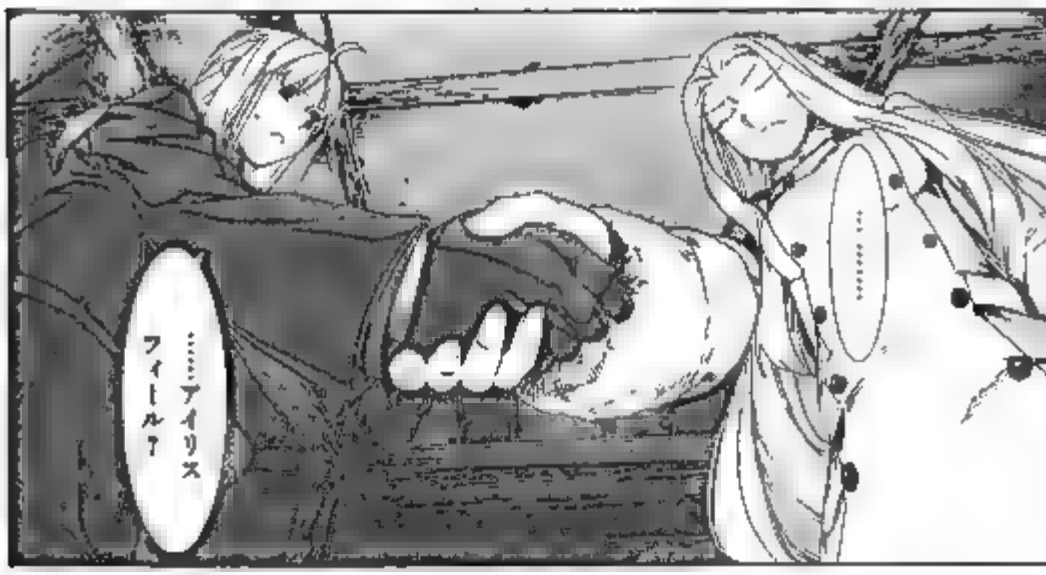


水銀の配合から
お願いして
いいかしら
配分は私の方で
指示するから
慎重に——
アイリス
フィール
ひとつ
伺いますが——
今日の貴女は何か
物に触れることを
慎重に避けている
節がある
私の気のせい
でしょうか？
車の運転
僕の運転…
やはりご自身で
なさろうとしない
その程度なら
気にするまでもない
と思っていましたが
肝心の魔術の実演まで
私の勘違いで
あればそう
言ってください
今日の貴女には
なにか不都合な
ことでもある
のですか？

……
もしも体調の不安なら
事前にそうと教えて
おいてもらわなければ
いざとなれば私は
貴女の身を守る
という務めがある
それ相応の
配慮が必要に
なります
……御免なさいね
たしかに隠して
どうこうなるもの
でもなかったわ
セイバー
手を
？

ガッ!!!

今から私は
精一杯の力で
あなたの手を
握るわ
いい？
？　…ええ　どうぞ

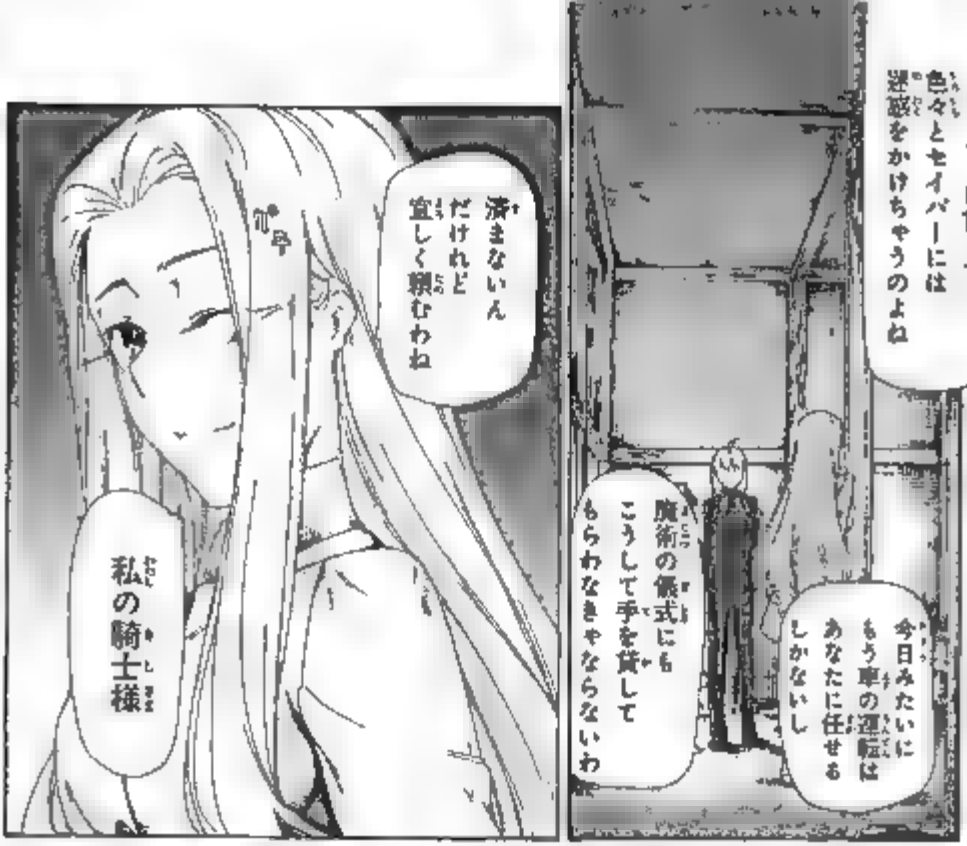

……
……アイリス
フィール？

ふざけてる
わけじゃないのよ
今の私には
これで精一杯なの
指先に引っかけたり
するのが精一杯で
握ったり摘んだりは
とても無理
壊れ物や
機械の類の
操作は
できないわ
朝 着替える
のにもかなり
苦労しちゃった

い 一体どうしたのです？
どこか怪我でも？
ちょっと体調が優れなくてね
触覚を遮断してるの
そんな簡単に済ませていい話ではないでしょう！
そもそも身体の不調というのはいったい何なのです？
手当てが必要なのでは？
五感のひとつを封じるだけでも霊格をかなり抑えられるから
他の行動には支障をきたさなくて済むってわけ
こういう融通が利くのってホムンクルスの強みよね
そこは気にしなくていいわ

忘れているかもしれないけれど私は普通の人間ではなくてよ？
風邪をひいたからって医者に診てもらうってわけにもいかないの
この不調はまぁ私の構造的欠陥とでもいうべきものだから

大丈夫
今は心配してもらわなくても私自身の処置でどうにかなるわ
？…


まあ そうは言っても
色々とセイバーには
迷惑をかけちゃうのよね
今日みたいに
もう車の運転は
あなたに任せる
しかないし
魔術の儀式にも
こうして手を貸して
もらわなきゃならないわ
済まないん
だけれど
宜しく頼むわね
私の騎士様

——勿論です
こちらこそ余計な
詮索をして申し訳
ありませんでした
お許しを

いいのいいの
それより手早く陣の敷設を済ませちゃいましょう
きちんと地脈に繋いだ魔法陣で休息すれば私の具合もちょっと好転するはずだから
判りました
それでは改めて手順の説明をお願いします

楽しみだなぁ
旦那
今度はどんな
COOLを見せて
くれるんだろ
激ワクしちゃうなぁ
くうううううるるる
カメ様／END

Fate

In the battleground, there is no place for hope

What lies there is just cold despair and a sin called victory,

built on the pain of the defeated.

The world as is, the human nature as always,

it is impossible to eliminate the battles.

In the end, killing is necessary evil-and if so,

it is best to end them in the best efficiency

and at the least cost,

least time.

Call it not foul nor nasty.

Justice cannot save the world. It is useless.

第35話

勝鬨を巻き上げて迫り来る
その軍勢を率いるのは
遥か西方ギリシアの小国
マケドニアの王座を
実父より簒奪し

イスカンダル

近隣諸国を平定して
コリントスの盟主と
なった若き王――

その進路に
立ちはだかった
防人たちを
暴君の軍勢は
瞬く間に打ち破る

誇りも栄華も
全て踏みにじり
イスカンダルは
敗軍の将たちを前に
こう放言する

「我らの国が
欲しいのではない
余はただ東に
行きたいだけだ」
「王は世界の
救済をするのだ」
「さらなる東の地
最果ての海を
この目で確かめ
その景色を
写真に収めたい」
そして勝ち取った
土地地下資源も
すべて捨て
捨てられてさらに
東へと去っていく
「たどり着いた
たまた生活圏だったから
開拓しました」
はじめ
我らは狩猟する
そんな馬鹿馬鹿しい
理由によって
消し飛ばされた我が身の
威厳を憐れんで自嘲する

だがやがて
すべてを失った
彼らは思い出す
あの空の彼方に
何かあるのか
あの山並みの
向こうに
何が見えるか
それはすべての
男たちがかつて
少年の日に思いを
馳せたユメでは
なかったか
ただひたすらに
武将として
為政者としての
地位を築きあげて
きた男たち
そんな彼らの意識を
一夜のうちに
覚していったのは——
よりにもよって
彼らが変てた
遠き日の情景を
胸に抱やす一人の男
だったのだと
そう理解して
しまった後に
男たちは再び
武器を取る

いざ
「最果ての海」
へ向けて――
男たちは声を
上げて合唱する
東へ
もっと東へ
いつか王と共に
行脚の旅路を
見るその日まで
そうして現れた
眼に映る海岸
アイツがついに
見ることが
叶わなかった場所
波の音の他には
何もない久遠の海

だが この最果ての夜の音こそ

しかしまた
どういう風の
吹き回しだ？
別に
ただの気分
転換だよ
—90:56:26
いいんだよ
オマエは何も
考えなくて
大体オマエだって
盛り場を出歩きたい
って一昨日から
ずっとゴネてた
じゃないか
うむ
異郷の市場を
ひやかす愉しみは
戦の興奮に勝るとも
劣らぬからな

……そんな理由で戦争ふっかけられた国は本当に気の毒だよな
何だ坊主？そのまるで見てきたかのような言いぐさは？
いいんだよこっちの話だ
じゃあボクはしばらくこの本屋にいるから
うむ
取り敢えずオマエは何やってもいいけどこのアーケードからは絶対に出るな
うむ
異聞だからって油断するなよ
うむ
もし万が一ボクが襲われたらオマエだって一巻の終わりなんだからな
うむ うむ
……征服するなよ
うむ
略奪するなよ
うむ
……

!!!!
『えっ？』
じゃねえええよッ!!!

万引きも
無銭飲食も
一切ナシだ！
欲しいものが
あったらきちんと
金を払え！
それとも令呪で
言い聞かせないと
判らないか!?
はっはっは
何を無粋な
マケドニアの
礼儀作法は
どこの宮廷でも
文明人として
通用したのだぞ

ALEXANDER THE GREAT
!?

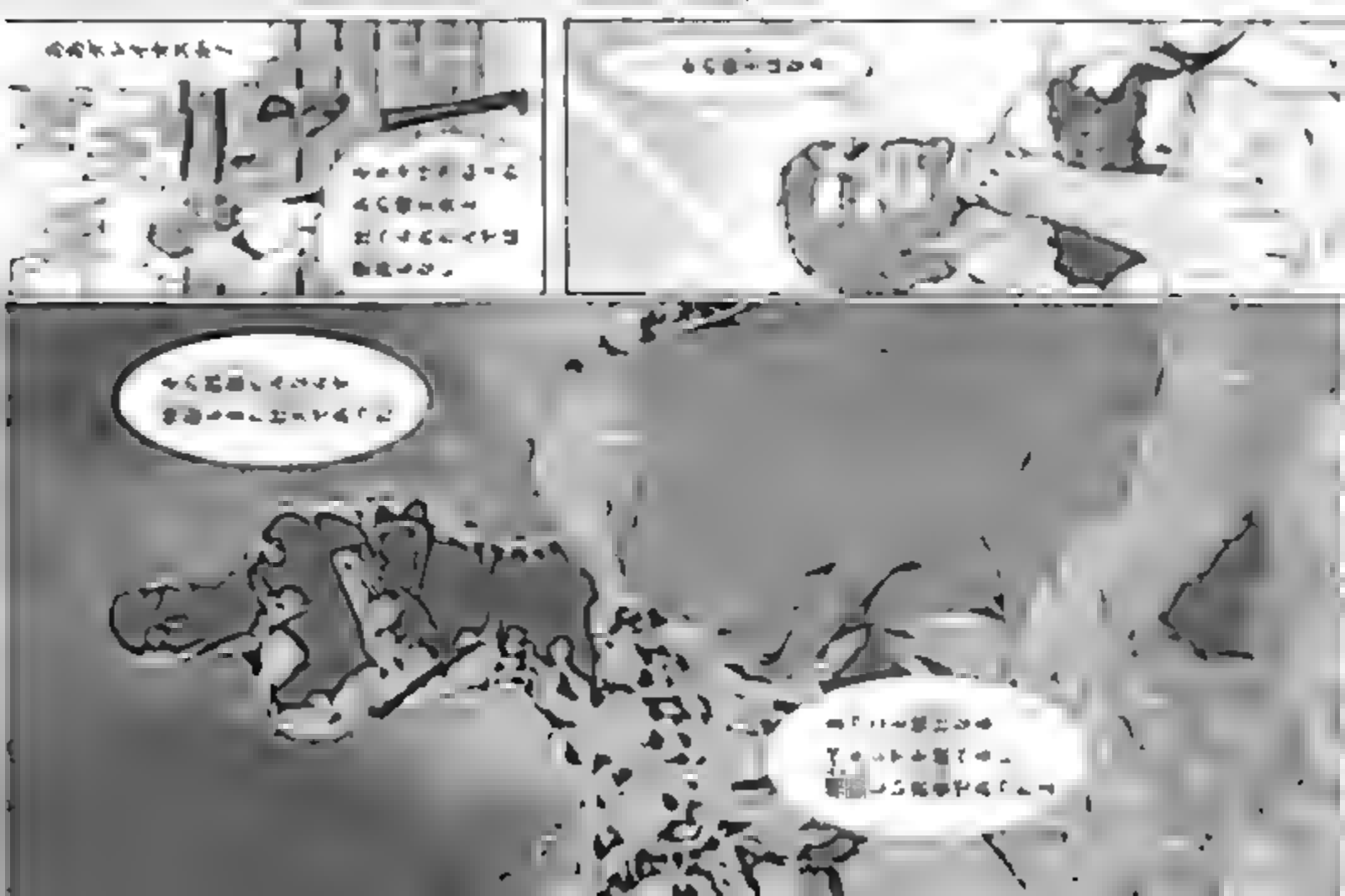
おお
いたいた
そうチビっこいと
本棚の間に
いたんじゃ全然
見えんなぁ
普通の人間は
本棚より
小さいんだ馬鹿
のっそ
探すのに
苦労したわい
のっそ
――で
ナニ買って
きたんだよ？
ほれ！
なんと
「アドミラブル
大戦略Ⅳ」は本日
発売であったのだッ
しかも初回
限定版だ！

おどみうん
フハハ
余のLUCは
やっぱり伊達
ではないな！
あのな
そういうものは
ソフトだけ
買ったって…
……
さぁ坊主
帰ったらさっそく
対戦プレイだ！
パッドも二つ
買ってきた
からな！
ボクはな
そういう下賤で
低俗な遊戯には
興味ないんだよ
ア

なんで貴様はそう好きこのんで自分の世界を狭めるかなぁ
ちったぁ楽しいことを探そうとは思わんのか？
うるさいな！
余計なことに興味を抱くぐらいなら真理の探究に専念するのが魔術師ってもんだ！
ボクにはテレビゲームなんぞに消費していい脳細胞なんてこれっぽっちもないんだよ！
んで
そういう貴様が興味を持ってたのはこの本か？
!!
ちちち違わい！
っつうか何で判った!?
コレ一冊だけ逆さまに本棚に入ってりゃあ誰だって気がつくわ

――っておい
「ALEXANDER THE GREAT」って：
こりゃ余の伝記ではないか
おかしなヤツだなぁ
そんな真偽も判らん記録なんぞアテにせんでも当の本人が目の前にいるんだから直に何なりと訊けば良いではないか
ああ訊いてやる！
訊いてやるよ！

オマエ 歴史だと
すっげぇチビだったって
ことになってるぞ！
それがどうして
そんな馬鹿でかい
図体で現界して
るんだよ!?
余が矮躯とな？
そりゃまた
どうして？
見ろよコレ！
ガポーン
オマエがペルシアの
宮殿を陥として
ダレイオス王の玉座に
座ったときの記録ッ
足が届かなくって
踏み台の代わりに
テーブルを用意した
って書いてある！



納得いかない……
なんだかすっごく納得いかないぞ！
それ言ったらアーサー王なんか女だぞ女
余の体格の逸話なんぞよりよほどタチが悪いわい

まぁ要するにだ
何処の誰とも知れんヤツが書き留めた歴史なんてもんはべつだん真に受けて有り難がるほどのもんでもないってことだな
自分の歴史なのにどうでもいいってのかよ？
いつの時代だって権力者ってのは自分の名前を後世に遺そうと思って躍起になるもんだろ
妙な誤解とかされてたら怒るのが普通だろうが
そりゃまぁ史実に名を刻むというのもある種の不死性ではあろうがな
余に言わせりゃ何の芸体もありゃせんわ

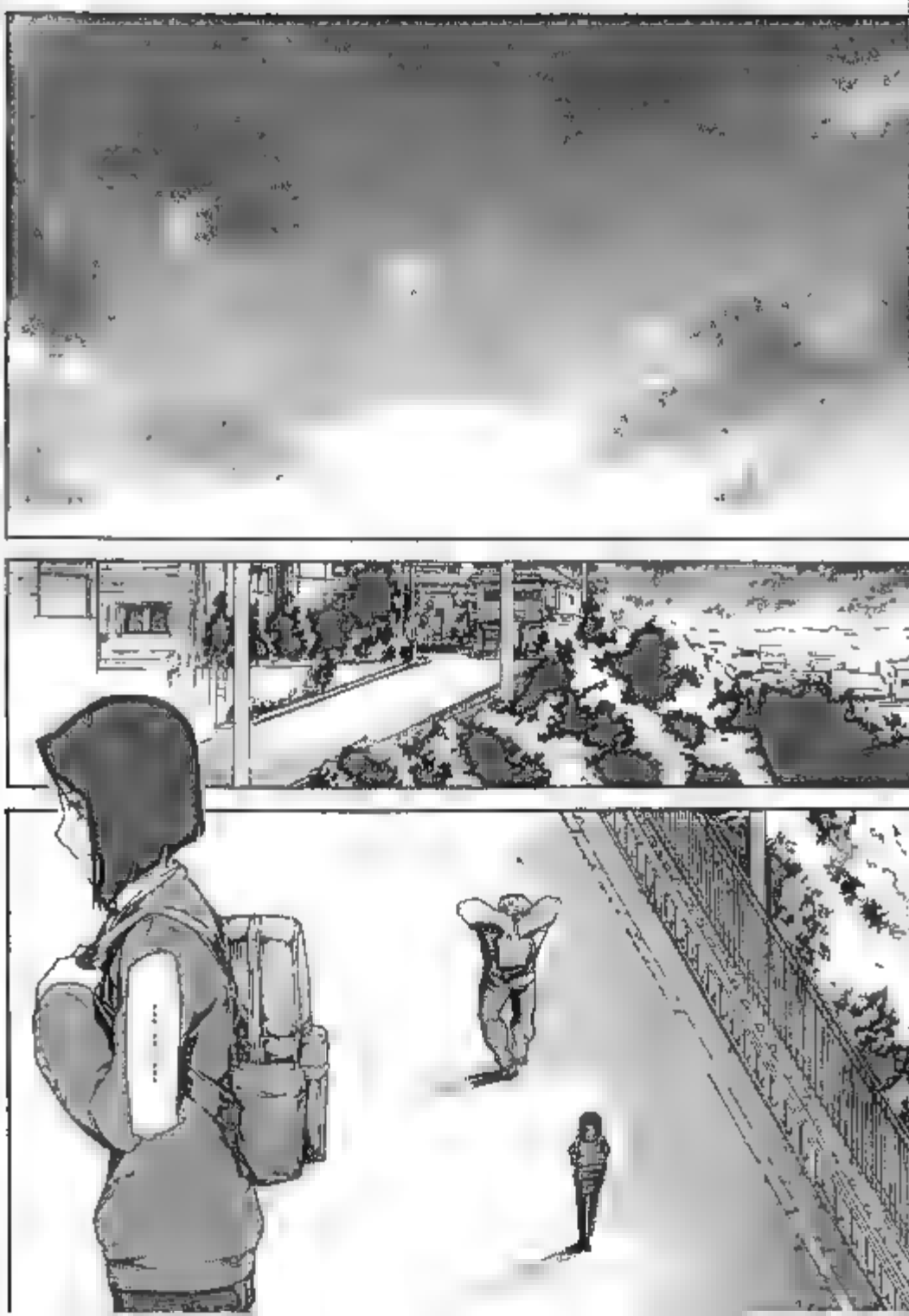
そんな風に本の中の名前ばっかり二千年も永らえるぐらいならせめてその百分の一でいい
現身の寿命が欲しかったわい
……

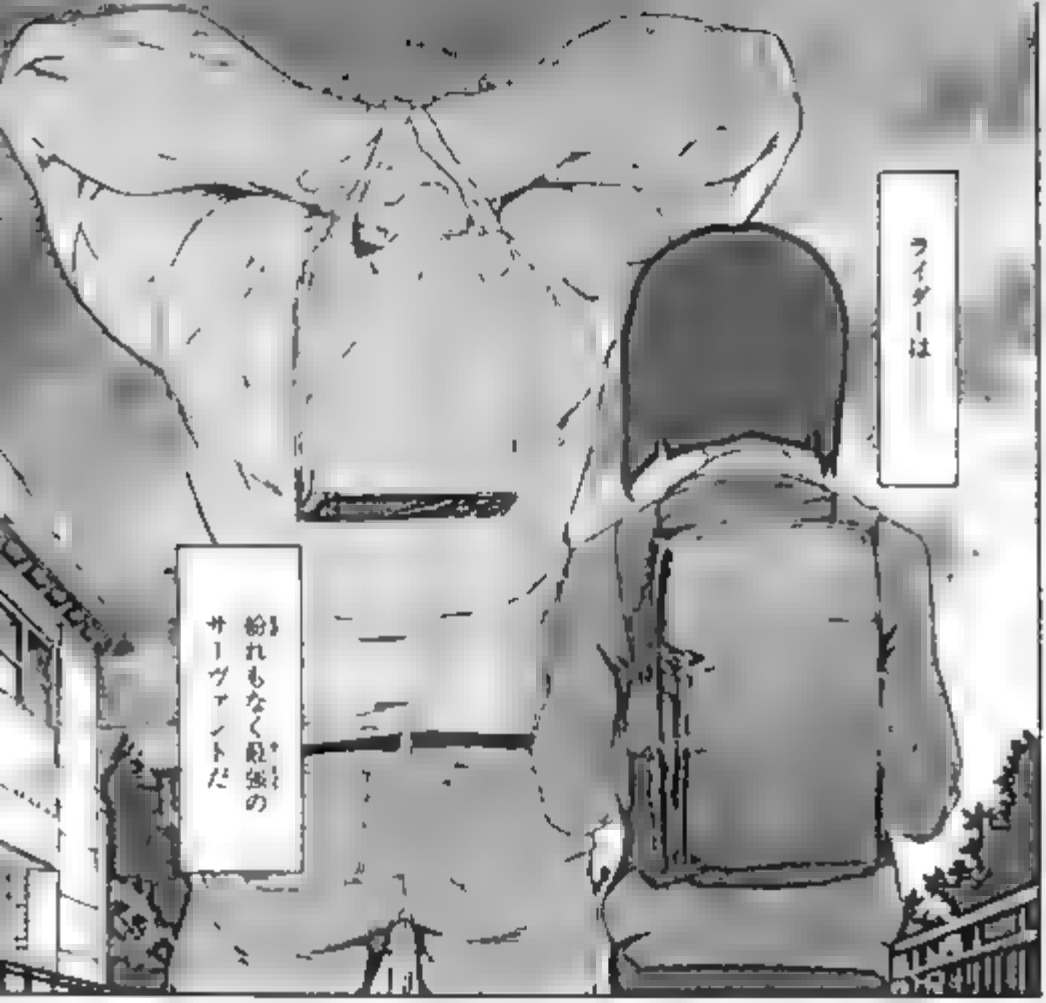
あぐあ
あと一〇年あったらなぁ
西方だって遠征できたんだけどなぁ

……いっそ聖杯に願うならついでに不老不死も叶えたらどうだ？
不死かぁイイなそれ
死ななかったら宇宙の果てまで征服し放題だなぁ

……そういえばひとたび掴んだ不老不死をあっさり手放した馬鹿者もおったっけな

フン
やっぱりあの野郎は気に食わん




ライダーは
紛れもなく最強の
サーヴァントだ

「王の財宝」――
あんなにも威圧的な
可視化された宝具を持つ
英霊が負けるはずがない
きっと全ての
敵を退けて
勝ち残るだろう
けどそれは
果たして俺の
ウェイバー
ベルベットの
勝利といえるのか？

ただひたすら
サーヴァントの背後に
控えて身を隠したまま
最後まで何の役にも立つこともなく
戦いの結末を見届ける
ただ運良く最強のカードを引き当てたというだけの
ただ相応の報酬としてその場に居合わせる事になる
こんな戦い
終わったところで
きっと自分は
何ひとつ変わらない
あまりにも強大に過ぎる英雄の姿で
ただひたすら自分の小ささを
惨めさを思い知らされるだけだ

なぁ〜にを黙り込んどるのだ？
んん？
コイツを見上げる角度が癪に障る
コイツに見下される角度がどうしようもなく悔しい
ボクは…オマエが
嫌いだ！

別に
オマエのこと
つまんないなって
思っただけだ
なぁんだ
やっぱり退屈
しとるんじゃ
ないか

違う！
だったら
意地張らずに
このゲームを——
オマエみたいな
勝って当然の
サーヴァントに
聖杯を獲らせ
たって…
ボクには
何の自慢にも
ならない！
いっそアサシン
とでも契約してた方が
まだやり甲斐が
あったってもんだ！

そりゃ無茶だったんじゃないかのう
たぶん死んでるぞ普通
いいんだよ！
ボクがボクの親いて死ぬんなら文句ない！
そう思ってボクは影杯戦争に加わったんだ！
それが――
何だよ！
いつの間にやらオマエの方が主役じゃないか！
ボクの立場はどうなる？
いったい何のためにボクはニッポンなんかに来たんだよ!?
いつだってボクが命令するより先に勝手なことばっかりしやがって！

そんなこと
言われても
なぁ……
のほん
貴様が聖杯に
託す願いが
余を魅せるほどの
大望であったなら
この征服王とて
貴様の差配に
従うのも吝かでは
なかったが
如何せん
背丈を伸ばし
たいってだけが
悲願じゃなぁ
勝手に
決めるなよ
ソレッ！
だいたい
僕の願いは――
なぁ坊主
そんなに
焦らんでも
良かろうて
何を――ッ！
なにもこの
聖杯戦争が
貴様にとって
人生最大の見せ場
ってわけじゃ
なかろう？

いずれ貴様が
■に様いと誇れる
生き様を見出したら
その時には否が応にも
自分のための戦いを
挑まなければ
ならなくなる
己の戦場を求めるのは
そうなってからでも
遅くない

願望機という
奇跡を前にして
希うものはたった一つ
ヒトとしての肉体のみ
聖杯と己自身とを
秤にかけて
己にこそ価値ありと断じする
そんなにも傲慢に
己を誇れるコイツは
そもそもいったい
何なんだ?

コイツはただ
どうしようもなく
雄大で強烈で
余人には及びも
つかぬ器量の
持ち主だったんだ
あんなにも勇壮に
輝く精鋭たちに
崇められ奉られ
死してなお忠義
されるほどに——
結局
認めるしか
ないんだ
コイツの悲願を
クダラナイと
嗤うのは つまりは
コイツとは程遠い
クダラナイ肉体で
クダラナイ人生を
歩んでいる者
なのだと
…この契約に納得
できないのは
なにもボクだけじゃ
ないだろう

んっ
オマエだって
不満だろうが！
こんなボクが
マスターだなんて！
ハッ
本当はもっと違う
マスターと契約
してればよっぽど
簡単に勝てたんだろ！
まぁ確かに貴様が
もう少しイイ体格を
しておれば今よりは
釣り合いが取れた
かもなぁ
……ッ！
ゴッ
ゴッ
！
ほれ坊主
見てみよ
余が立ち
向かっている
敵の姿を

ここに描かれた
〝敵〟の隣に
我らの姿を
描き込んでみよ

余と貴様と
二人並べて
比べられるように

そんなのは――

無理であろう？
どんな細筆
でも無理だ
描きようも
ないんだよ

これより立ち向かう
〝敵〟を前にしては
貴様も余も同じ
極小の点でしかない

この肉体は
征すべき敵に
比べれば
芥子粒より
なお小さい

貴様も余も
描って同じこと
至弱にして極小

これ以上
ちっぽけになりようも
ないほどに小さい
そんな一人の
背比べなんぞに
何の意味がある？

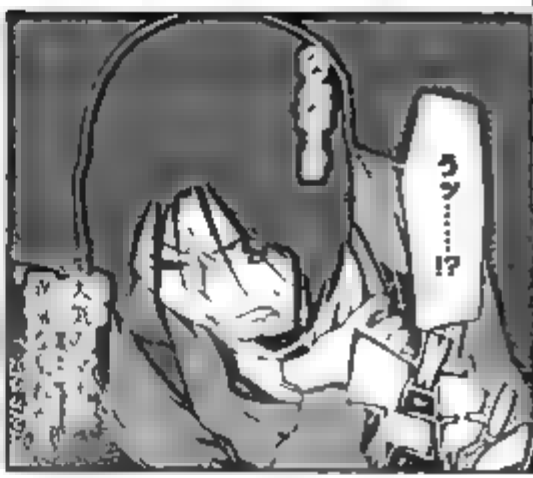
だからこそ
余は滾る

至弱 極小
大いに結構
この芥子粒に劣る
身をもって いつか
世界を凌駕せんと
大望を懐く
この胸の高鳴り…
これこそが
征服王たる
心臓の鼓動よ

：：要するに
マスターなんて
どうでもいいって
言いたいんだな
ボクがどんなに
弱かろうとオマエに
とっては問題にも
ならないんだな
何でそう
なるんだ
オイ
坊主
貴様のそういう
卑屈さこそが
即ち覇道の兆し
なのだぞ？
貴様は四の五の
言いつつも
結局は己の
小ささを判っとる
それを知った上でなお
分を弁えぬ高みを
目指そうと足掻いている

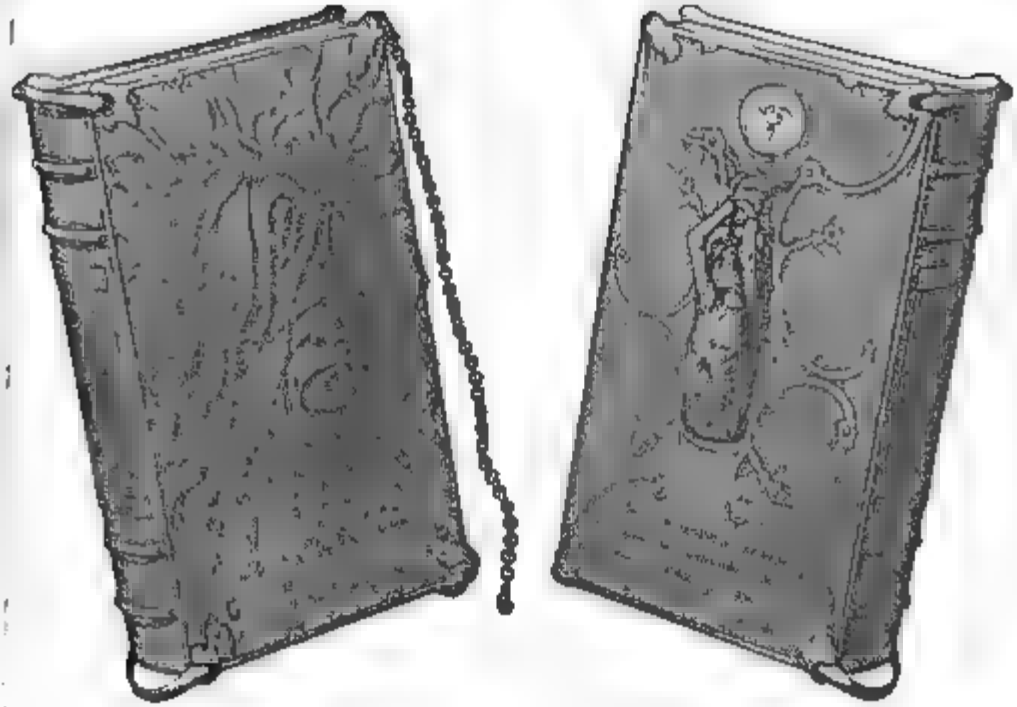
色々と心得違いもあるにせよ
「罰」の芽は確かにその胸に根付いておるのだ
……それ褒めてないぞ
馬鹿にしてるぞ…
ニヤ
そうとも
貴様は筋金入りの馬鹿だ
己の領分に収まる夢しか懐かん貧しいマスターと契約していれば余はさぞかし窮屈な思いをしておっただろう
だが貴様の欲望は己の埒外を向いている
「彼方にこそ栄え在り」といってな
余の生きた世■では
それが人生の基本則だったのだ
――だからな坊主
馬鹿な貴様との契約がまっこと余には快いぞ
なんでこいつは
恥しくもない事に限って自分を褒めそやすんだ
馬鹿だと言われて
喜ぶ馬鹿が
この世の何処にいるというんだ

……河だな


うっ……!?

第35話／END

Fate



In the battleground, there is no place for hope.

What lies there is just cold despair and a sin called victory,

built on the pain of the defeated.

The world as is, the human nature as always,

it is impossible to eliminate the battles.

In the end. killing is necessary evil-and if so,

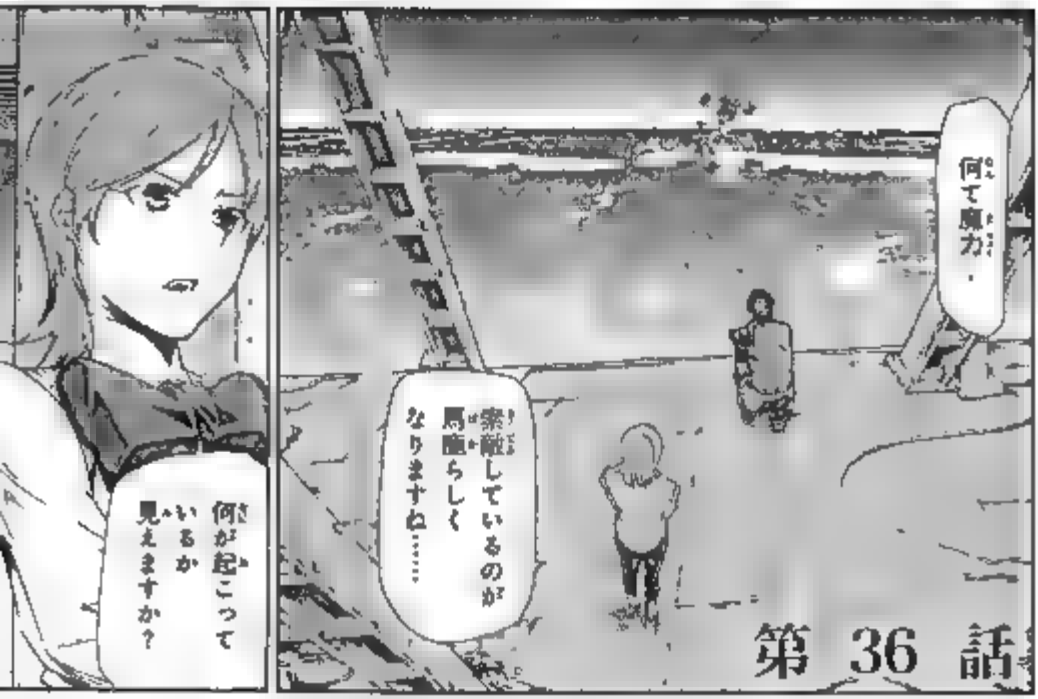
it is best to end them in the best efficiency

and at the least cost,

least time

Call it not foul nor nasty.

Justice cannot save the world. It is useless.


何て魔力・
索敵しているのが馬鹿らしくなりますね……
第36話
何が起こっているか見えますか？

—83:34:58

やはりキャスターです
河の中に陣取って何かやっているらしい
仔細なところまで見えかねますが

仕留めるなら
今が絶好の
チャンスよね？
焦り
何をやっているにせよ
奴が成果を挙げるより
先に引導を渡すのが
賢明かと
マスターを倒せば
この令呪は再び
完全な形を取り戻す
ディルムッドとの
完全な絆が――
私は打って
出ますが――
ソラウ様はどうか
ここに居残り
我が武功をご検分
くださいますよう

そんな！
私だって今はマスターです！
お側から掩護します！
なりません
憧りながら貴女には
ケイネス殿のように
武の心得がある
わけではない
あの河岸は
死地と
なりましょう
自衛の叶わぬ貴女を
守りながらの戦いは
私にとっても至難
どうかご理解ください
でも…
それともソラウ様もまた
このディルムッドの矛先に
暴りありと疑われますか？
恣意なる戦いに
戦れるものと？

ランサー
現場の判断は
すべて貴方に
任せます
どうか存分に
悔いなき戦いを
赦い

アイルムッド……
私がマスターとなって以来貴方は一度たりとも笑顔を向けてくれたことがない……
キャスターですが依然大きな動きはありません
それよりも周辺の住民が騒ぎ始めています
川岸に野次馬が集まるのも時間の問題かと
そうか
キャスターの能力と魔力の規模からすると大がかりな召喚を行おうとしているのは間違いないが
いずれにせよ対処はアイリたちに任せよう
それよりも

マスター狩り
——ですね
そうだ
魔術回路を励起
させている奴を
片っ端から仕留める
雪弥は引き続き
周辺の建物を探れ
僕は川岸周辺で
待ち伏せする
切嗣
結界が無い状況では
野次馬や警官で辺りは
ごった返すはず
その中での探索
狙撃、脱出をと
考えると
ああ
狙撃はキャスターが
把握できる河から行う
既に快速船を
手配させて
もらっている
ドドド

ハンター
やはり――
ミョン
案の定…
キャスターだったのね

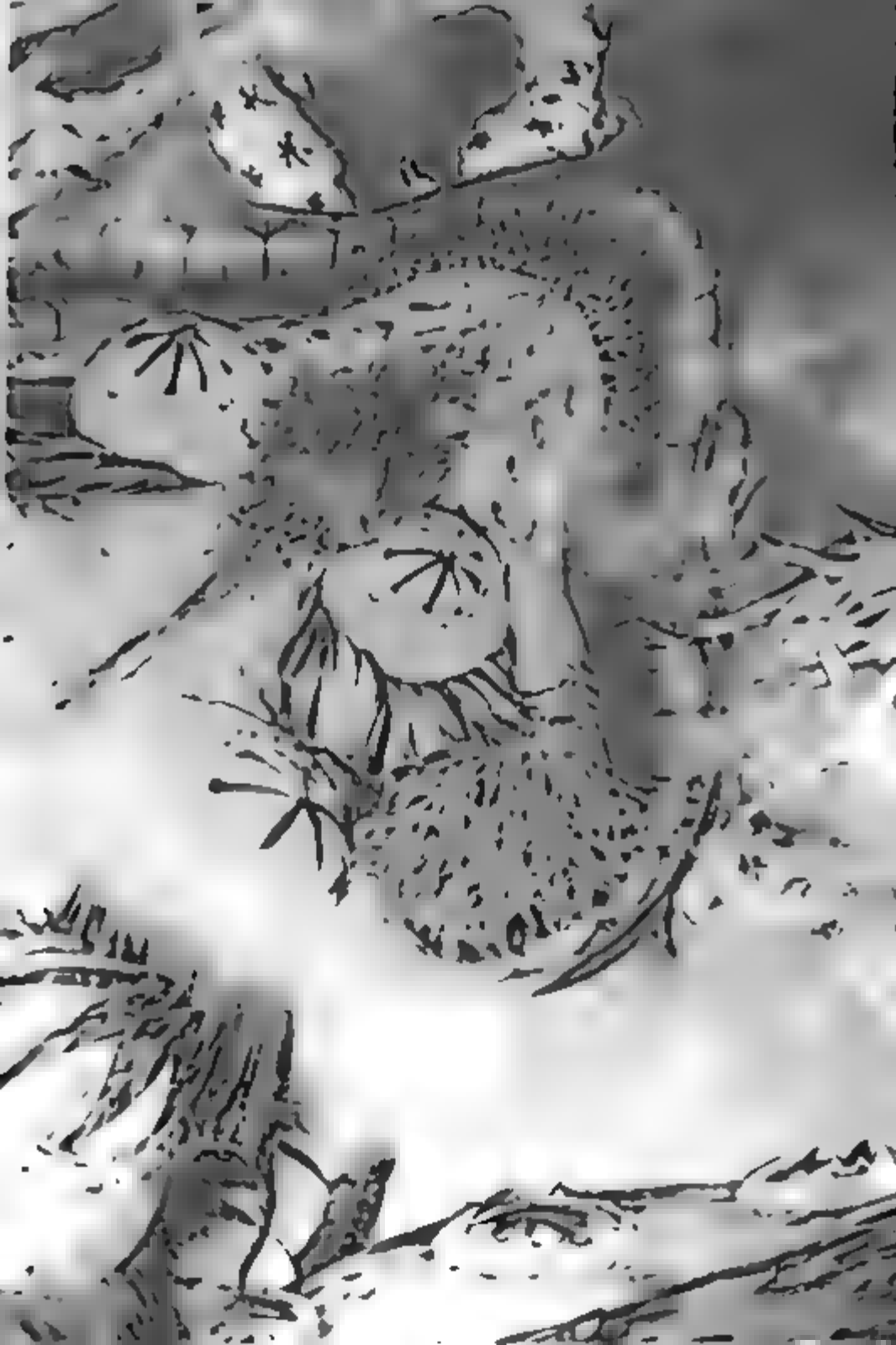
ようこそ聖処女よ

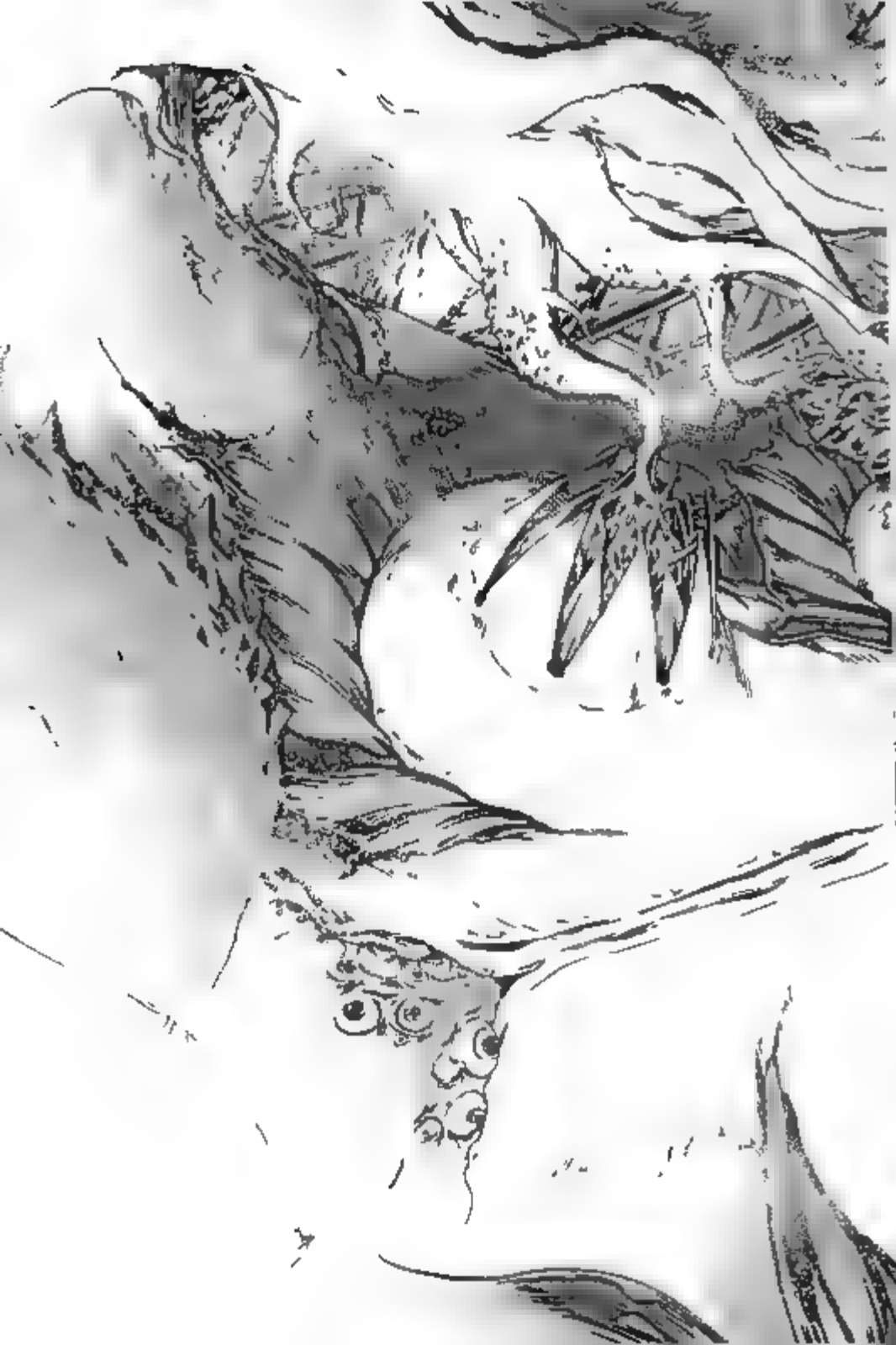
ふたたびお目にかかれたのは恐悦の至り

性懲りもなく……外道め
今夜は何をしでかすつもりだ!!
申し訳ないがジャンヌ
今宵の宴の主賓は貴女ではない
――ですが貴女もまた列席していただけるというのなら私としては至上の喜びですとも
不肖ジル・ド・レェめが催す死と退廃の饗宴をどうか心ゆくまで満喫されますよう

今また再び
我らは武具の
歌を歌げよう！
負けてられたも
骨は残うがいい
にぬられたも
骨も残うがいい
我が輩いる！
我が民べる！
我ら負けられたる
骨たちの意味は必ず
「勝」にも届く！
お前大上のおよ！
我は私情をもって
私身を戦えようッ！

キャスター……
飲み込まれていく!?
我らは既成より
引きずり下ろす!
傲慢なる「神」を!
不遜なる「神」を!
神の愛した
子羊どもを!
神の試練たる
人間どもを!
嘘だろ
オイ
何だよ
アレ!
今こそ存分に貶め
陵辱し引き裂いて
やろう!
神の子たちの
嘆きと恐怖に我ら
悪徳の喜悦を乗せて
天界の門を
叩いてやろう!





これは…？
まさかこれほどの怪物まで召喚してくるとは！
いいえ いくらサーヴァントでも召喚して使役できる使い魔の格には限度があるはずよ
えぇ 幸先することも考えなければ話は別だけれど
あの化け物はキャスターの制御下にはないわ？
そう「招き寄せる」だけならば どんな強大な魔物だろうと理屈の上では召喚可能だわ
ただ「門」を繋げるだけの魔力と術式さえあればいいんだから

そう考えておいて間違いないわ
魔物とは"魔を操る者"のこと
でもアレはそんな小手先の理屈なんか通用しない真性の「魔」
どこまでも果てしなく貪り喰らい呑み込む
そういう渇望の概念をそのままに具現化させたモノ
あんなものを呼び寄せるなんて行為自体が既に「術」でも何でもないのよ！
では あの怪物は誰に喚ばれたわけでもなく……？
そうよ ただ食事に招待されたってだけ
こんな街 ひとつぐらい数時間とたたず喰らい尽くしてしまうわ！
――ッ!!

よぉセイバー
良い夜だ――
と言いたいところだが どうやら 気取った挨拶を 交わしてる場合じゃなさそうだな
貴様またしても 厭れ言を垂らしに 来たか？
よせよせ 今夜ばかりは 休戦だ
あんなデカブツを ほっぽったままでは おちおち殺し合いの ひとつも出来やせんわ
さっきから そう呼びかけて 追っとるのだ
ランサーは 承諾した じきに追いついて くるはずだ

…他のサーヴァントは？
アサシンは余がよち殺してしまったし
バーサーカーは論外だ
アーチャーは……声かけるだけ無駄だろ
ありゃ馴れ合いに応じる柄じゃない

了解した
こちらも共闘に異存はない
征服王しばしの盟だがともに忠を誓おう

フフ
こと戦となれば物分かりが良いな

……
……
…ん？
どうした？
マスター遠坂は不服か？

構いません
アインツベルンは休戦を受諾します
ライダーのマスター宜しくて？
……アインツベルンあんたたちに策は？
さっきランサーから聞いたがキャスター本人と戦うのはこれが最初じゃないんだろ？
ともかく速攻で倒すしかないわ
あの怪物 今はまだキャスターからの魔力供給で現界を保っているんだろうけれど
アレが独自に糧を得て自給自足を始めたら もう手に負えない
そうなる前にキャスターを止めなくては

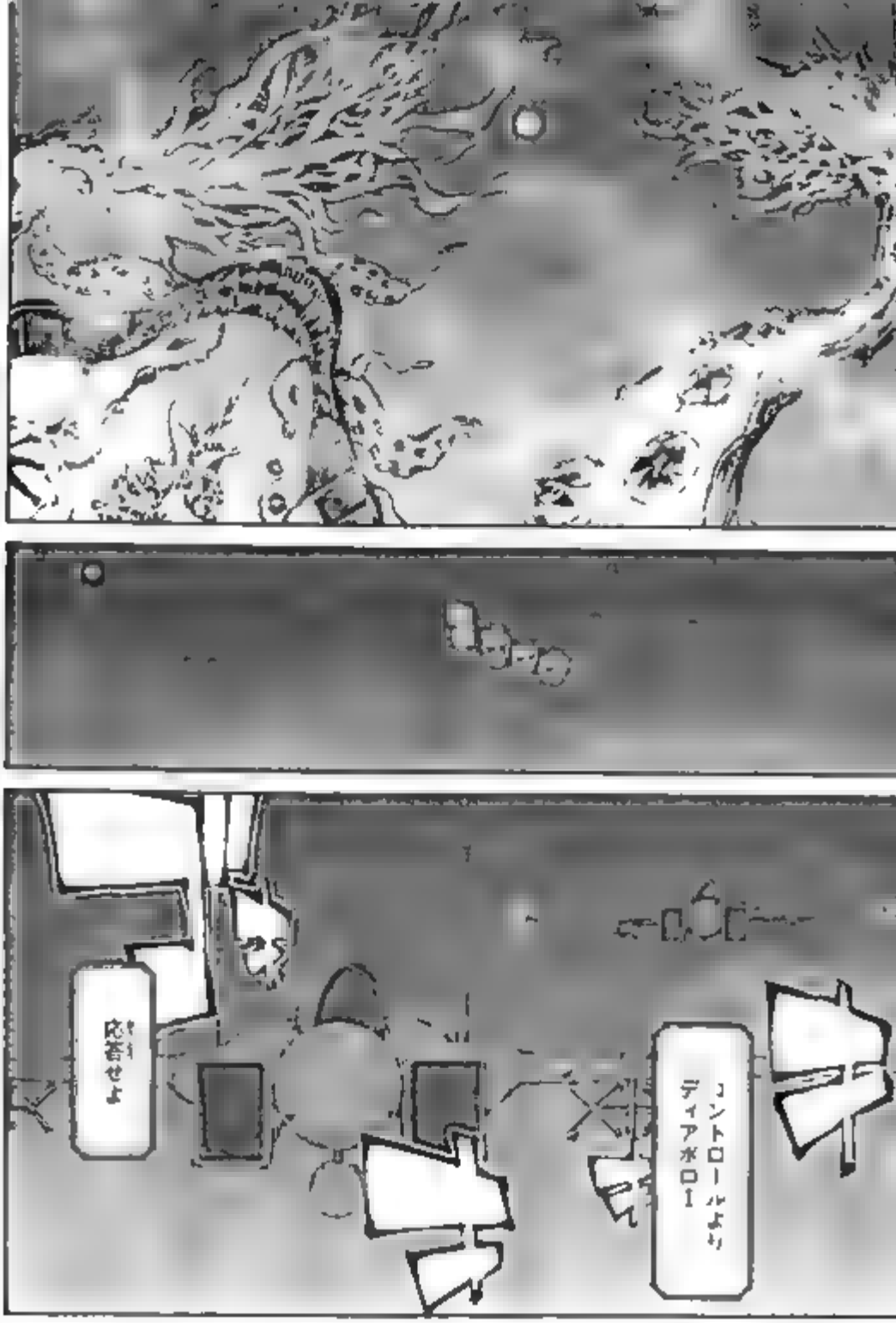
奴のあの魔術書ですね
奴が岸に上がって全身をふき始めも前にケリをつけなきゃならんわけだ
しかし…
敵のキャスターはあの分厚い何の魔術書とうた
まてどうする？
それしかあるまい
ヒュ
引きずり出す

奴の宝具さえ
剥ぎ出しにできれば 俺の
「破魔の紅薔薇」は一撃で
術式を破壊できる
……無論 奴がそう
やすやすと二度目を
許すとも思えんが
ランサー
その槍の
投擲で岸から
キャスターの
宝具を狙えるか？
モノさえ見えて
しまえば
細工もないさ
槍の英霊を
舐めんで
もらおうか

良し ならば先鋒は私とライダーが務める
いいな？征服王
構わんが…余の戦車に路は要らぬから良いとしても貴様は河の中の敵をどう攻める気だ？
この身は湖の乙女より加護を授かっている
何尋の水であろうとも我が歩みを阻むことはない
それはまた希有な奴…ますます我が幕下に加えたくなったのう
放言のツケはいずれまた払ってもらう

今はまずあの化け物の腕からキャスターを引き出すのが先決だ
セイバー武運を！
ハハ 忝り！
ならば一番槍は貰くぞ！

決着をつけるぞ！
キャスター!!


コントロールより
ディアボロー
応答せよ

こちら
ディアボロI
感度良好
何事だ？
冬木市警察より
災害派遣要請
ただちに任務を
中断し急行されたし
コントロール
指令内容を
明確にしろ
何がどう
なってる？
……冗談
だよな
おい？
ディアボロI
復唱せよ
……
ディアボロI
了解
本機はこれより
未遠川河口の
偵察にあたる
通信終わり
ともかく正式な
要請なんだ
ディアボロI
未遠川河口の
状況を観察し
報告せよ
そいつは傑作だ
俺も空自に入隊
した甲斐がある
あー
いいか？
笑うなよ
先方は
怪獣が出た
と言っている

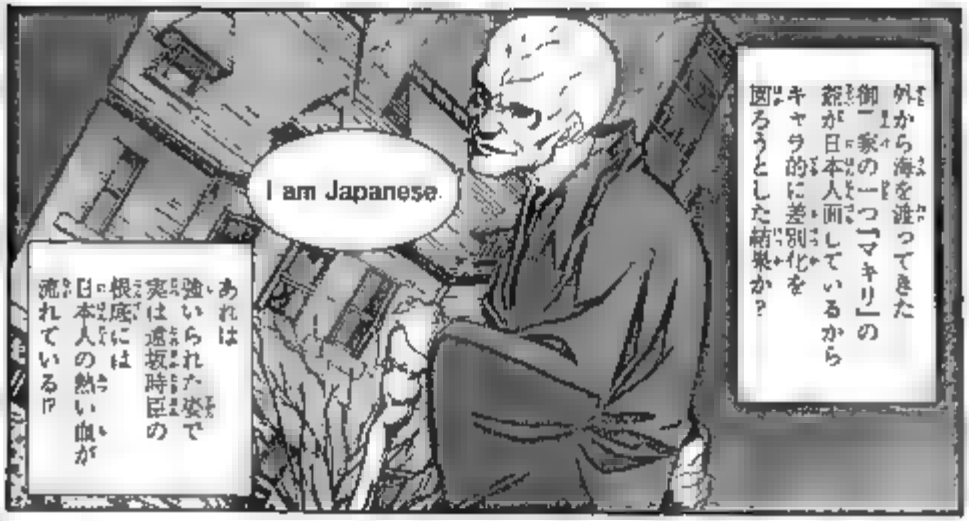
ディアボロII
聞いての通りだ
進路反転
引き返すぞ
了解
…いいんですかね？
もし本当に怪獣がいたら交戦許可って下りるんですかねえ？
これが怪獣映画なら俺達きっとヤラレ役だぜ
「光の巨人」が出てくる前の噛ませ犬だ
笑えませんよそれ
第36話／END

Fate

番外編

番外編

◆Kuritsugu's analysis◆


I am Japanese.
外から海を渡ってきた御一家の一つ「マキリ」の森が日本人面しているからキャラ的に差別化を図ろうとした結果か？
あれは強いられた姿で実は遠坂時臣の根底には日本人の熱い血が流れている!?

ハッ!!

ノーブルなジェントルマンを気取っていながら家の中では亭主関白！
モラルハラスメント！
まさかDVまで!?なんたる卑劣漢！

武将に例えるなら武田信玄のような…

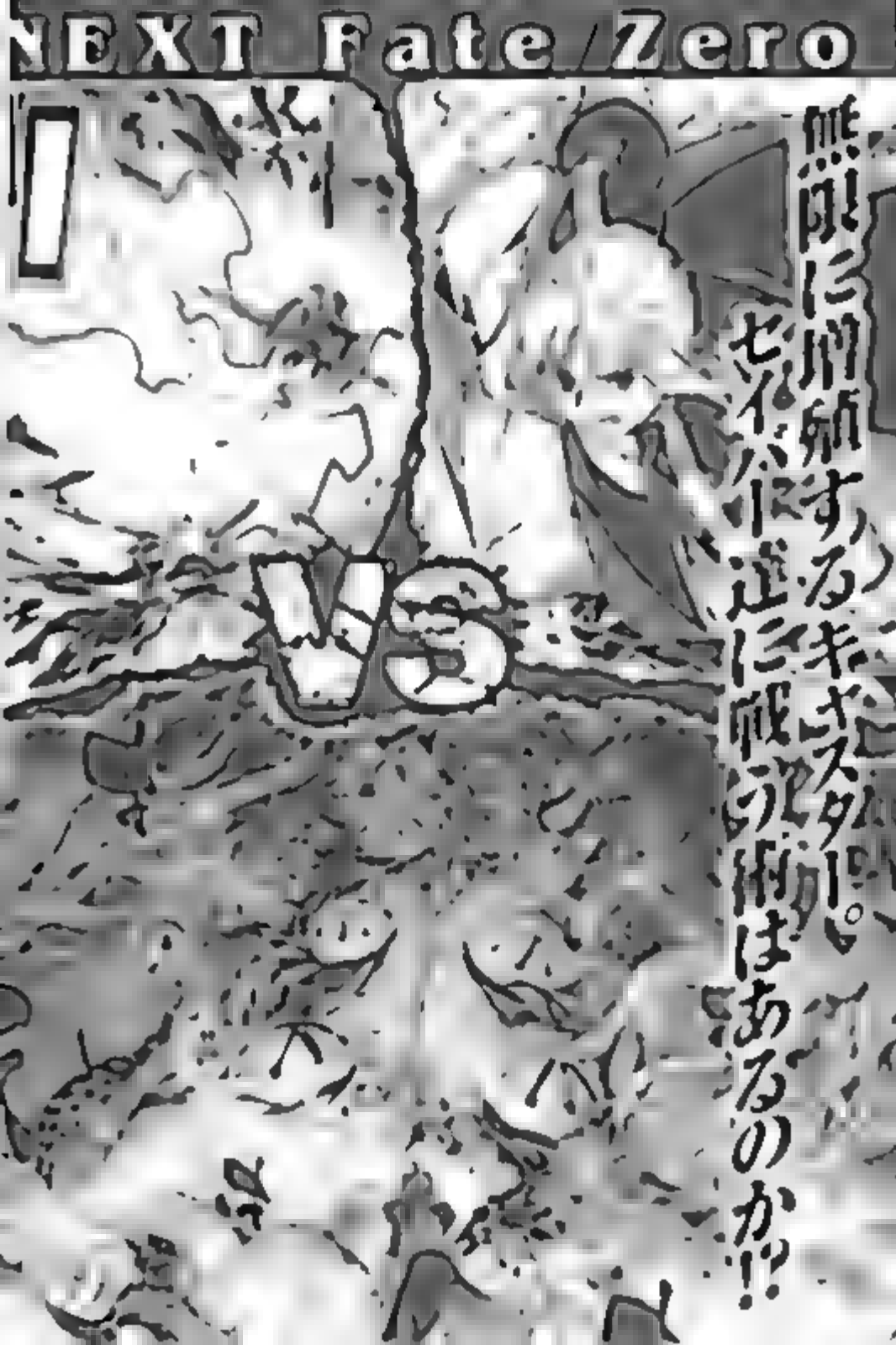
風林火山！

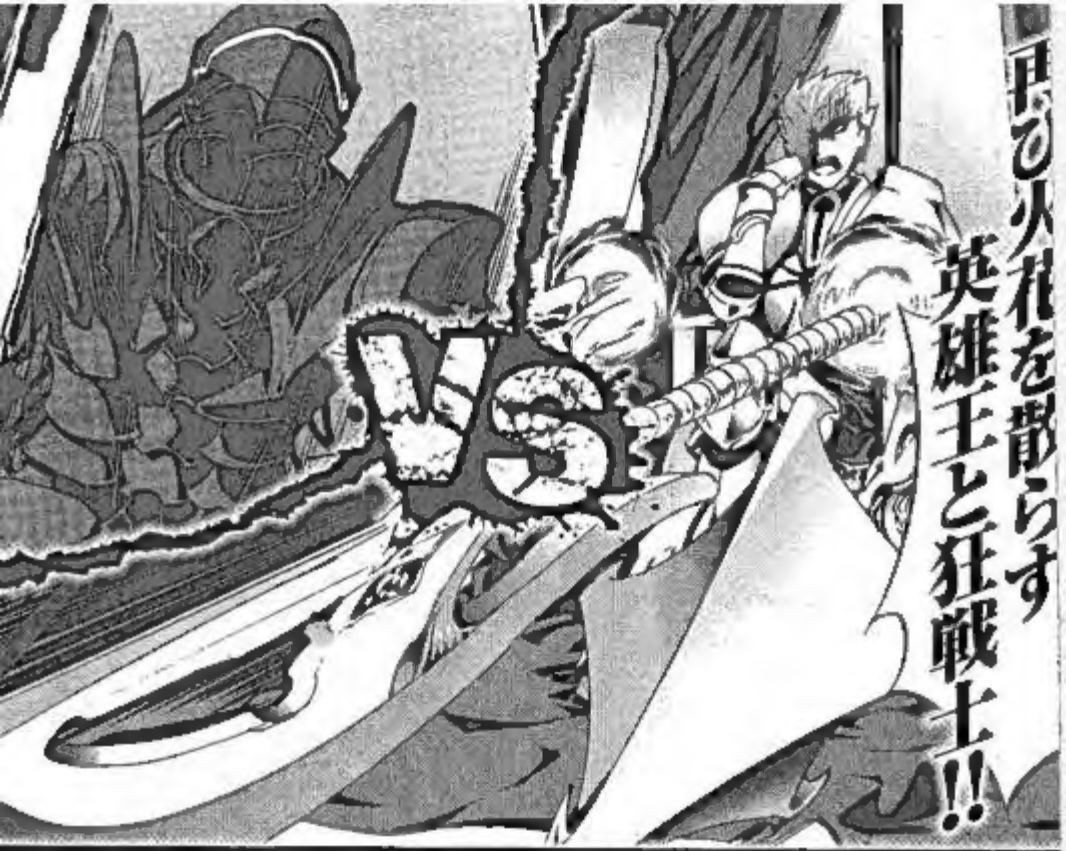
月刊
何という……
妻である遠坂葵も苦労しているのだろうな……
ピロピロ
切嗣！
グラグラ
先ほどから思考がダダ漏れです
支離滅裂で妄想が入っているようにも思われます
なにっ 口に出ていたか…
疲れているのではありませんか？
少し休息を取っては？
あ…あぁ そうだな クスリで少しハイになっていたようだ
2時間ほど休みを取る
聖杯戦争 最大の「異物」 ――言峰綺礼
この男がどういう意図で戦いに参加しているのかまだに理解できない
敵退を演出し教会に保護されながらなおアサシンを残して諜報活動を進めるという作戦は見事だ
だがこの作戦は言峰綺礼が教会に籍をおいてこそ完璧なものとなる

ハッ!!
教会に籠って
日本には昔
男色文化が
根付いていた
虚城時臣は
日本人として
ソドミィをタブー
とする西洋文化に
抵抗しようと
しているとあえれば
辻褄が合う!
なるほど
上手い作戦だ
言峰綺礼があえて
姿を現すことで
教会内に作り上げた
背徳的な世界を
隠蔽したわけか!

何という
俺れない
紋らめ…
ハッ!!
すまない 雪弥
眠っていた
切嗣!
未遠川に早く!
キャスタ が
大規模な召喚を
行いました!
何だって?
僕が気付かない
はずが:
ガオーン
……
……まず
完全に出遅れた……!
番外編
◆Kiritsugu's analysis◆
END

Staff/ 綾野貴弘、夏目りく


NEXT Fate/Zero
無限に増殖するキメラ!?
セイバーは遂に戒厳令下にあるのか!?
VS



未遠川決戦編遂にクライマックス!

Fate/Zero第⑧巻へ続く!

Kadokawa Comics A

角川コミックス・エース

Fate/Zero⑦

漫画

真じろう

原作：虚淵玄（ニトロプラス）／TYPE-MOON

2014年2月4日初版発行

発行者

山下直久

発行所　株式会社KADOKAWA

〒102-8177 東京都千代田区富士見2-13-3　電話／(03)3238-8521（営業）

http://www.kadokawa.co.jp/

編集　角川書店

〒102-8078 東京都千代田区富士見1-8-19　電話／(03)3238-8541（編集部）

装幀・デザイン

和田幸男

印刷　大日本印刷株式会社

製本　大日本印刷株式会社

初出／「ヤングエース」'13年8月号、9月号、11月号～'14年1月号
「TYPE-MOONエース」VOL.9

本書の無断複製（コピー、スキャン、デジタル化等）並びに無断複製物の譲渡及び配信は、著作権法上での例外を除き禁じられています。また、本書を代行業者などの第三者に依頼して複製する行為は、たとえ個人や家庭内での利用であっても一切認められておりません。

落丁・乱丁本は、送料小社負担にて、お取り替えいたします。KADOKAWA読者係までご連絡ください。（古書店で購入したものについては、お取り替えできません）

電話049-259-1100（9:00～17:00/土日、祝日、年末年始を除く）

〒354-0041　埼玉県入間郡三芳町藤久保550-1

この物語はフィクションであり、実在の人物・団体名とは関係がございません。

2014 KADOKAWA CORPORATION, Printed in Japan

©Shinjiro 2014　©Nitroplus/TYPE-MOON

ISBN978-4-04-120991-2 C0979

KADOKAWA

信念を貫きあらゆる障害を打ち砕く者。
欲望と快楽のために逃避する者。己の在り方にただ悩する者……。
想いが錯綜し、冬木市に降臨する。
アサシン脱落後、新たなる戦いのため各陣営が態勢を整える中、
拠点を破壊されたキャスターは、さらなる恐怖を撒き散らすため、
最大にして最後の召喚を行うのだった。
悪鬼の想唾棄まる運命の第七巻!!

9784041209912

1920979005600

ISBN978-4-04-120991-2
C0979 ¥560E

定価:本体560円(税別)

発行:株式会社KADOKAWA

KADOKAWA